

一般国民に対する ESG 投資に関するアンケート結果について

年金シニアプラン総合研究機構 ESG 調査研究グループ

要旨

年金基金の資金運用でどのような投資を行うかについて、加入者の一般的な意向をまったく無視することはできないであろう。このような想定の下で、年金加入年齢にある 20 歳から 59 歳までの国民を対象に ESG 投資に関するアンケート調査を行った。公的年金に関しては ESG 投資を行うことについて幾分反対が多かったが、賛成との差はさほどではなく、企業年金における意向も併せると、全体としてみれば、賛成、反対、不明の 3 者がほぼ拮抗している。現状の一般国民の意識は年金基金に対し ESG 投資を後押しするようなものではない。しかし、国民全体としては、まだ ESG 投資に対する認知度自体は低く、また、CSR に対しては好意的である。また、日本人の環境や社会問題などに対する意識が低いとも考えられないことから、今後の進展の余地が大きいとも考えることができよう。確定拠出年金においては加入者の約 7 割に ESG 投資の運用商品が提供されておらず、企業や運用会社のより一層の努力が期待される。

1 アンケート結果のまとめ

(1) はじめに

年金シニアプラン総合研究機構では、平成 23 年度から 3 か年計画で、「日本の年金基金における ESG 投資のあり方についての研究」¹を実施している。本研究では、①年金に係る様々な関係者の意向、②法的基盤と実践上の課題、③投資成果の定量的な分析、という 3 つのテーマで様々な調査や議論を行うことにしているが、このうち、①に関しては、まず、年金基金に対するアンケートを行うこととした。年金基金の投資に関する意向や実施状況を年金基金の役職員に聞くアンケート調査²を実施したのに続き、本調査は、年金基金にとって最も重要な関係者（ステークホルダー）である加入者（日本は国民皆年金にあることから、すなわち 20 歳～59 歳の一般国民）の意向を調査したものである。

今般、その集計結果を取りまとめたので、以下に報告する。

¹ 本研究は、文部科学省・科学研究費（基盤研究 C）による助成を受けている。

² この調査の結果については『年金基金に対する「ESG 投資に関するアンケート調査」～アンケート調査 結果概要』『年金と経済』第 30 巻第 4 号を参照。

(2) 調査の意義

年金基金にとって最も重要な関係者（ステークホルダー）は自らの老後のために每期保険料を拠出する年金加入者である。年金基金の資金運用はそれ自体専門的な知識・経験を要する活動であるが、どのような投資を行うかについて加入者の一般的な意向をまったく無視することはできないであろう。

今回の調査は、このような想定の下で、年金加入年齢にある 20 歳から 59 歳までの国民を対象に行った。わが国は国民皆年金の体制を取っているので、この年齢層の国民が年金加入者であるということができる。年齢別、性別、国民年金制度の加入区分別に割り付けて調査を行ったことから、回答者の構成としてはこのグループ間での偏りはなく、年金基金による ESG 投資に関して、年金加入年齢にある国民の総体的な意向をほぼ把握できたものということができる³。

(3) 年金基金の ESG 投資の賛否に関する一般国民の意向

本調査では、年金運用に対する ESG 投資について年金加入年齢にある一般国民がどのような意向を持っているか調査することが直接的な目的である。しかし、いきなりこの質問をしても、そもそも ESG 投資とは何かについてわからなければ、ほとんど実質的に内容のある回答が得られないと考えられる。そこで、まず、環境・社会・企業のガバナンスに関する具体的事例を挙げた質問を繰り返すことを通じて ESG 投資に関する認識を持ってもらい、その上で、年金運用に関連した質問をするという設問の流れとした。その意味では、本調査で最も重要な質問は、公的年金について ESG 投資をしてほしいかどうかを聞く問 11 と企業年金について同様のことを聞く問 13 である。

まず、公的年金の ESG 投資に関する一般国民の意向（問 11）については、ESG 投資を「してほしい」と積極的な取組みを求める意見は全体の 4.2%に過ぎなかった。これに対し、「してほしくない」とはっきりと反対の意見を表明したものは 12.4%であった。

また、「してほしい」と「どちらかといえばしてほしい」を賛成、「どちらかといえばしてほしくない」と「してほしくない」を反対とすると、賛成が 31.0%、反対が 34.9%と、反対が幾分賛成を上回る結果となった。ただし、この賛否では男女差があり、男性だけを取てみると、賛成（35.5%）が反対（32.5%）を上回っている。

なお、「その他」（自由記述）が 1.7%あったが、その内容は、収益との関係を指摘するも

³ 今回の調査がインターネット調査によっていることから、①回答者が調査会社のモニターに限られること、②インターネット利用者に限られること、③そのため高所得者バイアスがありうること、などの問題が考えられる。①については、今回選定した調査会社は 160 万人超のモニター会員を擁しているとしている、②については、今日 20 歳～50 歳代ではインターネットの利用は十分に普及しておりインターネット利用者が特別とは既にいえなくなっていると考えられる、③については、回答者の年収（問 16）でみて特別に高所得者に偏っているようには見えない、といったことから、得られたデータで分析を進めることで特に支障はないといってよいであろう。

のが多く、これらは条件付き賛成と見ることができるであろう⁴。「わからない」が 32.4% に上っていることにも留意が必要である。

企業年金における ESG 投資に関する一般国民の意向（問 13）でも、ESG 投資を「してほしい」が 4.2%、「してほしくない」が 11.6%と、「明確な反対は公的年金よりも若干低下するとはいえ、積極的な取組みを求めるものに対しかなり多い傾向は変わらない。しかし、「どちらかといえば」を含めた賛成と反対では、賛否は逆転し、賛成が 32.3%、反対が 31.5%と僅差ながら賛成が上回った。また、「わからない」が 35.2%であった。

以上、ESG 投資の是非についてははっきりと意見を表明したものの中では積極的な取組みより消極的な対応を求めるものがかなり多い。しかし、このように明確に意見を表明した者の割合は全体では 10%台であるのに対し、「わからない」という賛否不明のものが 3 割台と多い。また、「どちらかという」とも含めた賛成と反対では、公的年金に関しては幾分反対が多かったが、賛成との差はさほどではなく、企業年金における意向も併せると、全体としてみれば、年金基金の ESG 投資に対しては、賛成、反対、不明の 3 者がほぼ拮抗しているといえてよいであろう。

このような状況では、年金基金が加入者に背中を押されるという事態は考えにくい。わが国においては、年金基金による ESG 投資は現時点では全体的に低調であるが、加入者の総体的な意向という観点からは、ESG 投資が今後大きく進展するという客観的な情勢にはないというべきであろう。

（4）公的年金資金の市場運用の認知度と ESG 投資に関する諸論点について

公的年金の積立金が株式や債券などに投資されて運用されていることに関する認知度（問 9）は、「よく知っている」と「まあ知っている」を合わせて 45.2%であり、半数近くがそのことを知っている。これに「聞いたことはある」を加えると、73.3%となり、公的年金積立金が市場運用されていることについては、かなり国民の間で認識されていることがうかがわれる。ただし、男女差がかなりあり、男性に限ると、「よく知っている」と「まあ知っている」の合計が過半数（54.4%）になる。

公的年金積立金で ESG 投資をすることについて様々な観点から意向を聞いた（問 10）結果について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を賛成、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」は反対とすると次のとおりである。まず、環境や社会問題などの取組みにも役立てられるよう（問 10 の 1）、という観点からは、賛成（31.8%）より反対（34.4%）が多かった。反対の中で「そう思わない」という明らかに否定的な見解も 17.3%と多かった。しかし、環境や社会問題などに後ろ向きの企業に投資しないよう（問 10 の 2）、というネガティブ・スクリーニング的な観点からは、賛成（33.9%）が反対（32.2%）を上回ったことは興味深い。ただし、「そう思わない」が 15.9%であったこ

⁴ ただし、そもそも年金資金でリスクのある運用をすることに反対という趣旨の意見も散見された。

とにも留意すべきである。また、環境や社会問題などで投資先を選択することは経済的に合理的（問 10 の 3）、という観点については、賛成（26.7%）より反対（37.6%）がかなり多かった。

年金の保険料は将来の年金の支払いのためだけを考えて運用すべきであり、環境や社会問題などを考える ESG 投資はこれに関係がない（問 10 の 4）、という ESG 投資に否定的な観点については、これを明確に支持する「そう思う」が多かった（11.3%）一方で、「どちらかといえば」も含めた賛否では、賛成（33.2%）よりも反対（34.8%）が多く、全体としては必ずしも ESG 投資が否定的にとらえられているわけではない結果になった。環境や社会問題で投資先を選定することは投資成績に結びつかない（問 10 の 5）、という同じく否定的な観点（賛成 29.2%、反対 36.1%）、また、公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではない（問 10 の 6）、という否定的な観点（賛成 29.3%、反対 36.0%）についても、賛成より反対がかなり多かった。また、全ての観点について「わからない」が約 3 分の 1 を占めていた。

これらを総合すると、個別の論点ごとには必ずしも ESG 投資に否定的な見解が多く支持を集めるということではなく、また、「どちらかといえば」が多いこと、「わからない」が多いことなども考慮すると、議論が深まってくれば、ESG 投資に理解が得られる余地がかなりあることを示すものと考えられるだろう。

（5）企業年金の ESG 投資に関する諸論点について

企業年金による ESG 投資について様々な観点から意向を聞いた（問 12）ところでは、まず、環境や社会問題などの取組みを支援するため（問 12 の 1）、という観点については、公的年金の場合とは逆に、賛成（32.7%）が反対（31.3%）を上回った。ただし、はっきりと反対の意見を表明する「そう思わない」が 14.8%あったことに留意が必要である。環境や社会問題などに後ろ向きの企業に投資しないよう（問 12 の 2）、というネガティブ・スクリーニング的な観点からも、賛成（33.9%）が反対（30.0%）を上回った。ただし、「そう思わない」は 14.3%あった。環境や社会問題などで投資先を選択することは経済的に合理的（問 12 の 3）、という観点については、賛成（29.9%）より反対（32.0%）が多かった。

年金の保険料は将来の年金の支払いのためだけを考えて運用すべきであり、環境や社会問題などを考える ESG 投資はこれに関係がない（問 12 の 4）、という ESG 投資に否定的な観点については、賛成（29.7%）よりも反対（35.2%）がかなり多く、差は公的年金より大きかった。また、環境や社会問題で投資先を選定することは投資成績に結びつかない（問 12 の 5）、という同じく否定的な観点についても、賛成（26.0%）より反対（35.7%）がかなり多かった。企業の労働者の老後の生活に当てられる資金なので、労働者の意見をよく聞いて決めるべき（問 12 の 6）、という観点については、「そう思う」という明確な支持（19.1%）を含めた賛成（47.4%）が反対（20.3%）を大きく上回った。なお、いず

れの観点も「わからない」がやはり 3 分の 1 を占めている。

公的年金に比べると、企業年金の ESG 投資に対する意向は若干積極的な傾向が見られたことは、問 11 と問 13 の賛否の対比でも見られたとおりである。このことは、わが国全体の ESG 投資を進めるために、まず企業年金の取組を促進することが、国民意識という観点からは適切な方策であることを示唆するものであると考えることができるだろう。

(6) 確定拠出年金加入者の状況

本調査においては、確定拠出年金(DC)制度は自らの判断で運用するものであり運用に関する具体的事項を調査しやすいことから、DC 加入者の抽出率を高め、DC 加入者だけの質問も行った(問 13-2~13-6)。このうち、ESG 投資商品が含まれているか、また、選択しているかについて聞いた(問 13-2)ところ、「含まれていて選択している」は 4.5%、「含まれているが選択していない」が 15.0%に対し、「含まれていない」が 43.6%であった。「よくわからない」は 36.9%であったことから、これを除くと、約 7 割(69.2%)の DC 加入者にとって運用商品に ESG 関連の投資商品が実質的に含まれていないことになる。DC 制度を運営する企業とともに、運用会社にも DC 加入者にとって魅力的な商品を開発・提供するより一層の努力が期待される結果といえよう。

なお、ESG 関連商品に投資したいと考える人について、投資したい商品を聞いた(問 13-3)ところでは、環境関係が最も高く(35.7%)、次いでガバナンス関係(27.1%)で、女性や雇用など社会関連が最も少なかった(16.3%)。また、投資しようと思う理由(問 13-4)では、「自分の周りの社会や環境が良くなることにつながるから」が過半数の支持(51.1%)を得た。投資成績との関係(問 13-5)では、回答者の 3 分の 2(66.7%)が「他の投資成績と同程度なら投資する」とし、「他の投資商品より投資成績が良ければ投資する」が約 4 分の 1(26.4%)であった。これに対し「他の投資商品よりある程度成績が悪くても投資する」(4.9%)、「投資成績に関わらず投資する」(2.0%)はわずかであった。

ESG 関連商品には投資したくないと考える人について、その理由を聞いた(問 13-6)ところ、「確定拠出年金プランは将来の自分の年金を確保するためのものであって、このような社会的な問題は関係ないから」が過半(52.7%)であった。

(7) ESG 投資、SRI、CSR の認知度

ESG 投資や社会的責任投資(SRI)、企業の社会的責任(CSR)の一般国民による認知度(問 6)について、「よく知っていた」と「まあ知っていた」を合計したもので見ると、ESG 投資は 8.4%、SRI は 11.8%、CSR は 21.3%であった。なお、これに「聞いたことはあった」も加えると、ESG 投資は 23.9%、SRI は 29.0%、CSR は 39.8%となる。最近主だった企業から CSR レポートが毎年刊行されるようになっているが、一般国民の認知度という観点からはまだ低いといえよう。ただ、これは逆にみると、これから認識を増やす余地が大いにあるということもできるであろう。

その CSR について考えを聞いた（問 7）ところでは、「CSR に積極的に取り組んでいる企業には好感が持てる」とする回答が 46.6%あった。「CSR は企業経営が適切に行われるための基本であり、企業は率先して取り組むべきだ」（36.5%）、「多くの企業が CSR に取り組めば、経済全体の成長や発展にもつながる」（33.1%）にも多くの支持があった。

逆に、「企業は利益を追求することが目的なので、CSR は法令や規制の範囲でやればよい」（8.9%）、「CSR は企業のイメージアップ活動に過ぎないので、特に評価する必要はない」（7.2%）、「CSR に取り組む余裕があるなら、製品やサービスの価格を下げてほしい」（5.5%）といった CSR に否定的な回答はいずれも 1 けたであった。

このように肯定的な回答と否定的な回答では肯定的なものがかなり上回っており、国民全体として CSR を好意的に受け止めているものといえることができる。なお、「CSR についてはよくわからない」が 30.7%あった。

（8）欧米との比較、連合の取組に対する評価

日本は欧米に比べ ESG 投資は低調といわれる。社会的責任投資フォーラム（SIF-Japan）が SRI の市場規模としてホームページに掲載するデータ⁵も示しつつ、これからの日本の ESG 投資について聞いた（問 14）ところ、「欧米に追随する必要はないが、もっと活発になってほしい」が最も多く（33.8%）「欧米のように日本でも ESG 投資が活発になるべきだ」（4.5%）も加えると、これからより活発になる方向を支持する回答が最も多かった。なお、「投資のことはよく分からない」は 33.3%あった。

労働組合の連合が 2010 年 12 月に「ワーカーズキャピタル責任投資ガイドライン」を策定しているが、これは年金加入者でもある労働者を組織する労働組合の取組として本調査の趣旨に照らし注目されることから、これについての考えも聞いた（問 15）。この結果は、連合の取組に対し好意的な回答が半数近く（「とてもよい」が 9.3%、「まあよい」が 37.2%で合計 46.5%）になり、否定的な回答（「あまりよくない」9.1%、「まったくよくない」2.6%）を大きく上回った。

（9）今後の課題など

以上、現状における一般国民の意識は賛成、反対、不明が拮抗し、このような状況では、年金基金に対し加入者の総体的な意思として ESG 投資を進めるよう後押しをするというようなことを期待することは難しいだろう。一方で、国民全体としては、まだ ESG 投資に対する認知度は低く、また、CSR に対しては好意的である。また、日本人の環境や社会問題などに対する意識が低いとも考えられないことから、今後の進展の余地が大きいとも考えることができよう。これを現実のものにしていくためにどのような条件などが必要

⁵ 2007 年の ESG 投資の市場規模は、米国で 2 兆 7,110 億ドル（約 306 兆円）、欧州で 2 兆 6,654 億ユーロ（約 344 兆円）に対し、日本は約 8,500 億円であり最近（2011 年 9 月）では 8,032 億円。

か明らかにしていくことが今後の本研究プロジェクトの課題と考えられる。

今回行ったのはアンケート結果の単純集計である。この結果を受けた今後の研究課題として、さらに様々なデータ分析を行うことが挙げられる。今回の調査では、回答者の属性に関する質問を幾つか行っており、これらと回答内容との関係をより精緻に分析し、年金基金における ESG 投資に関する一般国民の意向をより詳細に把握することが必要である。

2 調査計画の概要

(1) 調査の目的

「日本の年金基金における ESG 投資のあり方についての研究」の一環として、国民皆年金の下にある国民一般について、その環境・社会・企業のガバナンスに関する関心の程度、年金運用における ESG 投資に関する意向などを把握することにより、今後の日本の年金基金における ESG 投資のあり方を検討するための基礎情報を得ることを目的とする。

(2) 調査対象

① 対象者の範囲

国民皆年金の下で年金加入年齢にある 20 歳から 59 歳までの国民を対象とした⁶。

対象者の選定に当たっては、性別及び年齢層（10 歳きざみ）に加え、国民年金制度の加入区分に応じ、第 1 号、第 2 号、第 3 号に区分して調査対象者を割り付けた。ただし、確定拠出年金(DC)制度は自らの判断で運用するものであり運用に関する具体的事項を調査しやすいことから、DC 加入者の抽出率を高めた。

② 具体的な割付け案

平成 22 年度公的年金各制度の財政状況報告（社会保障審議会年金数理部会）掲載データによる平成 22 年度末各制度の男女別・年齢 5 歳階級別加入者数を基礎とした。

平成 22 年度末企業型 DC 加入者は総数が 3713 千人（20-59 歳の厚生年金加入者の 12.0%）だが、性別・年齢階級別の加入者数のデータが見当たらないため、性・年齢分布は厚生年金と同じと仮定した。厚生年金と共済年金はまとめて第 2 号として割り付けた。また、第 1 号と第 3 号はまとめて割り付けた。

以上により、24 グループ（年齢 4 区分ごとに、第 1 号・第 3 号、DC 加入者以外の第 2 号、DC 加入者のそれぞれ男女の 6 区分）になるが、DC 以外の最少グループ（40-49 歳の第 1 号・第 3 号男性）のサンプル数が 100 になるようにした。その上で、DC 加入者には特別の質問をすることから、十分な数の回答が得られるよう、DC 加入者のサンプル数を 10 倍にした。

実施に当たっては、十分な分析のためにはできるだけ多くのサンプル数が得られた方がよいことから、この 1.5 倍で実施した（総サンプル数 7,048）。

⁶ 60 歳以上でも一定の条件にある者は国民年金に加入することができるが、これはあくまで任意での加入である。また、被雇用者は 69 歳までは厚生年金に加入することになるが、わが国の企業は 60 歳定年制を取るものが多く、一方、現在のところ 60 歳になると厚生年金の受給が可能になる（いずれ 65 歳まで引き上げられる）。これらから、「年金加入者」たる国民の総体的な意向を調査する対象として、20 歳から 59 歳までとした。

(3) 調査方法

迅速かつ確実にデータが収集できるネットアンケート調査とし、十分な数のモニターを擁する実績のある調査会社の中から競争に付した結果、(株)クロス・マーケティングを選定して、委託した。

(4) 質問事項

まず、予備調査で割付け案のとおり対象者を選定し、そのうえで、本調査を行うという2段階の調査とした。

本調査では、年金運用に対する ESG 投資の意識を調査することが直接的な目的となるが、いきなりこの質問をしてもほとんど内容のある回答が得られないと考えられる。このため、まず、環境・社会・企業のガバナンスに関する具体的事例を挙げた質問を繰り返すことを通じて ESG 投資に関する認識を持ってもらい、その上で、年金運用に関連した質問をするという設問の流れとした。

(5) 調査時期

アンケートは平成 24 年 3 月に行った。

3 調査対象者の概要

一般国民の総体的な意向を把握するための質問（以下「一般国民調査」という。）においては、調査計画における割付け案が、性別・年齢10歳階級別・年金制度加入区分別に日本全体の状況に合わせて設定されている。従って、調査対象者の構成比は日本全体のそれとほぼ同じと考えて差支えない。ただし、DC加入者の抽出率が10倍になっているので、これを他の区分と同じ抽出率に調整し、4,678サンプルについて集計を行った。ただし、DC加入者だけに聞く質問（以下「DC加入者調査」という。）に関しては、抽出率を調整することなく、収集した2,635サンプルについて集計を行った。

(1) 一般国民調査の対象者の概要

◇ 回答者の性別・年齢別内訳

	回答者全体		男性		女性	
	4,678		2,370		2,308	
	合計		男性		女性	
20～29歳	993	21.2%	510	21.5%	483	20.9%
30～39歳	1,306	27.9%	668	28.2%	638	27.6%
40～49歳	1,224	26.2%	619	26.1%	605	26.2%
50～59歳	1,155	24.7%	573	24.2%	582	25.2%
合計	4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%

◇ 加入年金制度別内訳

	全体		男性		女性	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
国民年金	1,451	31.0%	692	29.2%	759	32.9%
厚生年金	2,228	47.6%	1,418	59.8%	810	35.1%
共済年金	384	8.2%	248	10.5%	136	5.9%
第3号被保険者	615	13.1%	12	0.5%	603	26.1%
合計	4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%

	20代		30代		40代		50代	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
国民年金	349	35.1%	355	27.2%	363	29.7%	384	33.2%
厚生年金	423	42.6%	701	53.7%	604	49.3%	500	43.3%
共済年金	94	9.5%	79	6.0%	103	8.4%	108	9.4%
第3号被保険者	127	12.8%	171	13.1%	154	12.6%	163	14.1%
合計	993	100.0%	1,306	100.0%	1,224	100.0%	1,155	100.0%

◆ 企業年金別内訳

	全体		男性		女性	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
確定拠出年金型	265	11.9%	169	11.9%	96	11.9%
上記以外の企業年金	819	36.8%	572	40.3%	247	30.5%
加入していない	1,180	53.0%	705	49.7%	475	58.6%
合計	2,228	100.0%	1,418	100.0%	810	100.0%

	20代		30代		40代		50代	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
確定拠出年金型	55	13.0%	81	11.6%	71	11.8%	58	11.6%
上記以外の企業年金	160	37.8%	246	35.1%	221	36.6%	192	38.4%
加入していない	216	51.1%	383	54.6%	318	52.6%	263	52.6%
合計	423	100.0%	701	100.0%	604	100.0%	500	100.0%

(2) DC 加入者調査の対象者の概要

DC 加入者はすべて厚生年金加入者⁷であり、その性別・年齢別内訳は次のとおりである。

	回答者全体		男性		女性	
	2,635		1,684		951	

	合計		男性		女性	
20～29歳	549	20.8%	302	17.9%	247	26.0%
30～39歳	804	30.5%	526	31.2%	278	29.2%
40～49歳	706	26.8%	471	28.0%	235	24.7%
50～59歳	576	21.9%	385	22.9%	191	20.1%
合計	2,635	100.0%	1,684	100.0%	951	100.0%

⁷ 国民年金第2号被保険者の中から割付けたので、第1号被保険者が加入できる個人型 DC 加入者は本調査では対象外である。なお、企業型 DC 加入者 4,218 千人に対し第1号の DC 加入者は 46 千人（平成 24 年 3 月末・厚生労働省調べ）である。

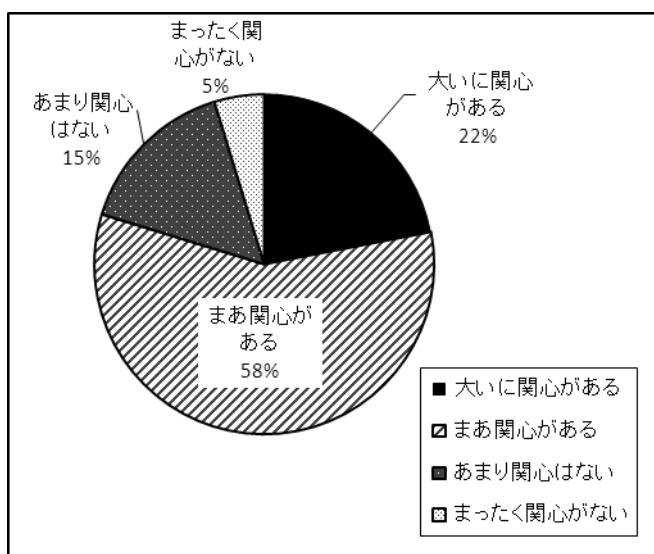
4 一般国民調査の集計結果

以下では、実際の質問項目ごとに、回答の集計結果を示す。

問1 環境や社会問題、企業のあり方などについて、毎日のように、新聞やテレビなどで様々なニュースや解説が取り上げられています。あなたは、そういった問題についてどの程度関心を持っていますか。（単一回答）

「1. 大いに関心がある」、「2. まあ関心がある」、「3. あまり関心はない」、「4. まったく関心がない」

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	大いに関心がある	1,027	22.0%	587	24.8%	440	19.1%
2	まあ関心がある	2,704	57.8%	1,310	55.3%	1,394	60.4%
3	あまり関心はない	725	15.5%	335	14.1%	390	16.9%
4	まったく関心がない	222	4.7%	138	5.8%	84	3.6%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%

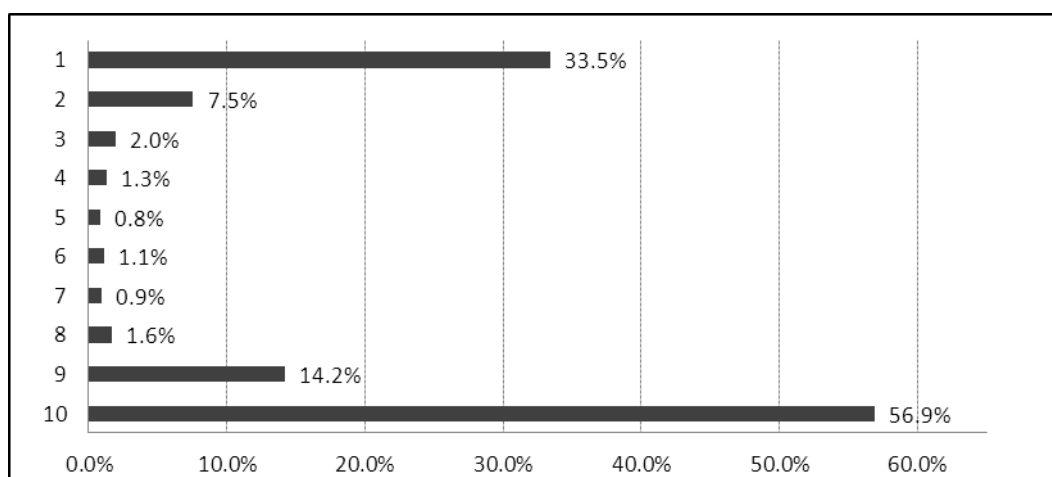


問2 あなたはこれまで次のような投資をした経験がありますか。当てはまるものをすべて選んでください。（複数回答）

1. 株式の購入
2. 社債の購入
3. 環境問題に積極的に取り組んでいる企業等を選択して投資する投資信託（エコファン

- ド、温暖化対策関連ファンド、水資源関連ファンドなど)
4. 企業の社会的責任を積極的に推進している企業等を選択して投資する投資信託（グッドカンパニーファンド、社会的責任投資ファンドなど）
 5. 女性、健康、雇用など特定の社会問題に積極的に取り組んでいる企業等を選択して投資する投資信託（健康応援ファンド、ウーマノミクス・ファンド、ファミリー・フレンドリー・ファンドなど）
 6. 企業の経営体制の改革や経営情報の透明化などに積極的に取り組んでいる企業を選択して投資する投資信託（コーポレートガバナンスファンドなど）
 7. 世界の環境対策を促進するために国際機関が発行する債券（グリーン債、エコロジー債、ウォーター債など）
 8. 発展途上国の子供の医療や教育を促進するために国際機関が発行する債券（ワクチン債、教育債、子育て支援債など）
 9. 上記以外の投資信託
 10. 上記のどれも経験がない

	全体		男性		女性	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	1,565	33.5%	991	41.8%	574	24.9%
2	353	7.5%	180	7.6%	173	7.5%
3	92	2.0%	45	1.9%	47	2.0%
4	60	1.3%	33	1.4%	27	1.2%
5	39	0.8%	10	0.4%	29	1.3%
6	52	1.1%	23	1.0%	29	1.3%
7	43	0.9%	16	0.7%	27	1.2%
8	77	1.6%	33	1.4%	44	1.9%
9	665	14.2%	364	15.4%	301	13.0%
10	2,661	56.9%	1,203	50.8%	1,458	63.2%
合計	4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%

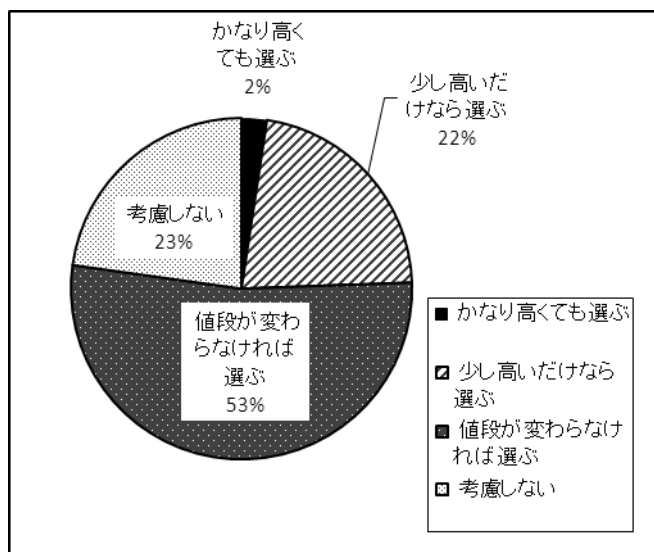


問3 環境や社会問題への対応に熱心に取り組む企業の製品を優先して購入することは、その企業を支援することにつながります。いくつかの企業の製品（性能はほぼ同じ）の中から購入を検討する場面を想像してください。その中の1社が次のような企業であるという情報を得ていたとすると、あなたはそれを商品選択の際にどの程度考慮すると思いますか。項目ごとに、あなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。

（項目ごとに、「1. かなり高くてもその企業の製品を選ぶ」、「2. かなりでなく、少し高いだけならその企業の製品を選ぶ」、「3. 値段が変わらなければその企業の製品を選ぶ」、「4. この情報は商品選択では考慮しない」から単一回答）

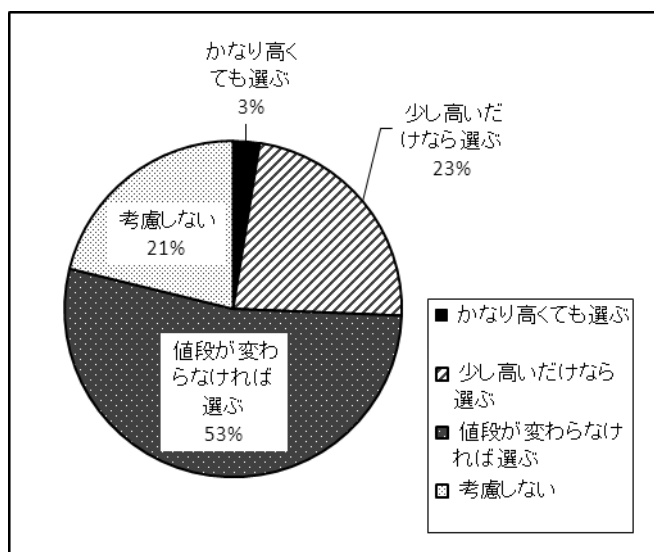
◇ 1 大気中への二酸化炭素の排出を抑制する努力をしている企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	かなり高くても選ぶ	112	2.4%	55	2.3%	57	2.5%
2	少し高いだけなら選ぶ	1,031	22.0%	485	20.5%	546	23.7%
3	値段が変わらなければ選ぶ	2,469	52.8%	1,228	51.8%	1,241	53.8%
4	考慮しない	1,066	22.8%	602	25.4%	464	20.1%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



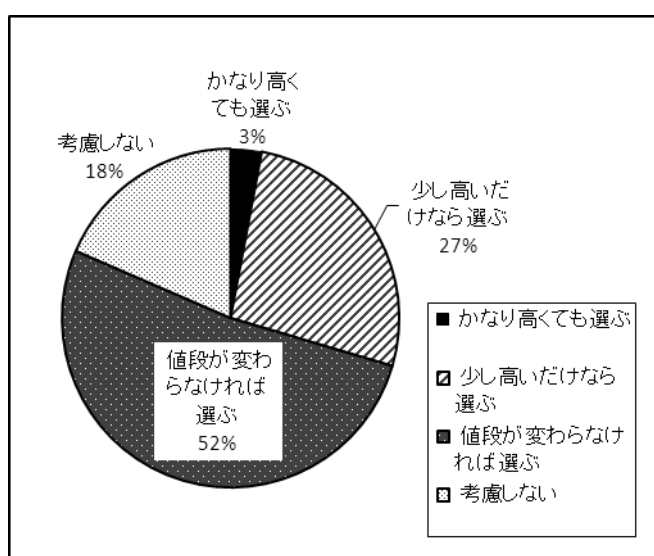
◇ 2 産業廃棄物の排出を極力減らす努力をしている企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	かなり高くても選ぶ	119	2.5%	65	2.7%	54	2.3%
2	少し高いだけなら選ぶ	1,080	23.1%	493	20.8%	587	25.4%
3	値段が変わらなければ選ぶ	2,489	53.2%	1,260	53.2%	1,229	53.2%
4	考慮しない	990	21.2%	552	23.3%	438	19.0%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



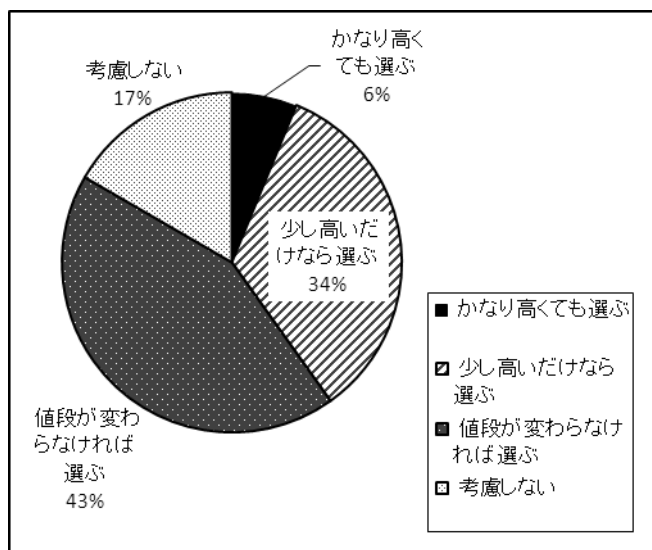
◇ 3 省エネやリサイクルを重視するなど、環境に及ぼす影響が少ない製品を提供している企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	かなり高くても選ぶ	138	2.9%	78	3.3%	60	2.6%
2	少し高いただけなら選ぶ	1,246	26.6%	570	24.1%	676	29.3%
3	値段が変わらなければ選ぶ	2,429	51.9%	1,229	51.9%	1,200	52.0%
4	考慮しない	865	18.5%	493	20.8%	372	16.1%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



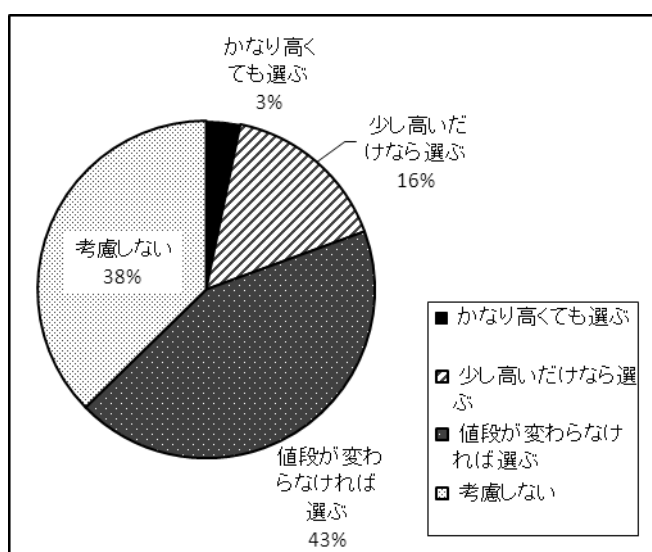
◇ 4 使う側の利便を考えた製品開発に努力し、苦情に対しては消費者の立場に立った対応をする企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	かなり高くても選ぶ	290	6.2%	161	6.8%	129	5.6%
2	少し高いただけなら選ぶ	1,588	33.9%	798	33.7%	790	34.2%
3	値段が変わらなければ選ぶ	2,021	43.2%	991	41.8%	1,030	44.6%
4	考慮しない	779	16.7%	420	17.7%	359	15.6%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



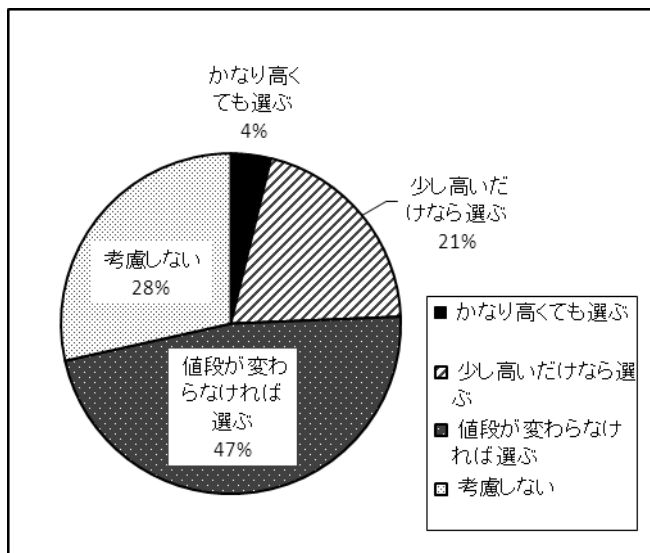
◇ 5 育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	かなり高くても選ぶ	152	3.2%	65	2.7%	87	3.8%
2	少し高いただけなら選ぶ	756	16.2%	324	13.7%	432	18.7%
3	値段が変わらなければ選ぶ	2,025	43.3%	1,002	42.3%	1,023	44.3%
4	考慮しない	1,745	37.3%	979	41.3%	766	33.2%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



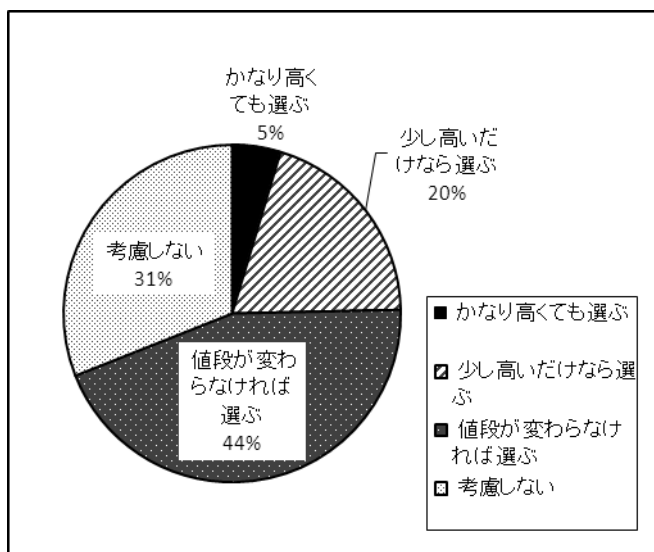
◇ 6 自社だけでなく取引先（海外の取引先を含みます。）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件が持ち込まれないよう努力している企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	かなり高くても選ぶ	178	3.8%	84	3.5%	94	4.1%
2	少し高いだけなら選ぶ	961	20.5%	449	18.9%	512	22.2%
3	値段が変わらなければ選ぶ	2,206	47.2%	1,103	46.5%	1,103	47.8%
4	考慮しない	1,333	28.5%	734	31.0%	599	26.0%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



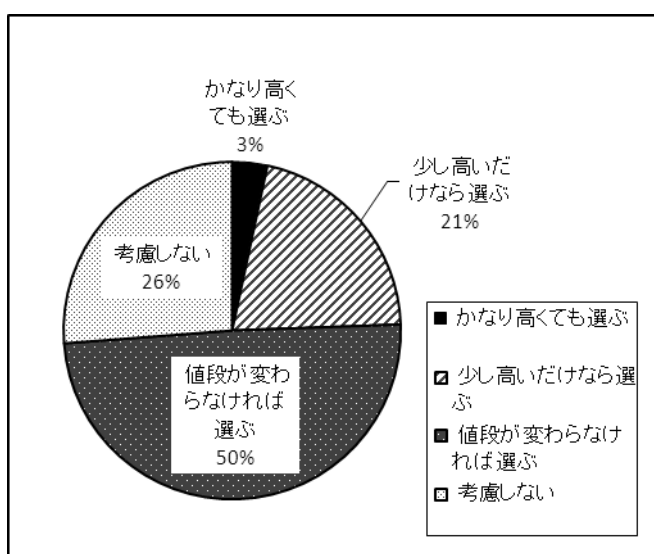
◇ 7 発展途上国での取引で、役人からわいろを要求されても毅然として応じない企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	かなり高くても選ぶ	217	4.6%	109	4.6%	108	4.7%
2	少し高いだけなら選ぶ	936	20.0%	444	18.7%	492	21.3%
3	値段が変わらなければ選ぶ	2,075	44.4%	1,042	44.0%	1,033	44.8%
4	考慮しない	1,450	31.0%	775	32.7%	675	29.2%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



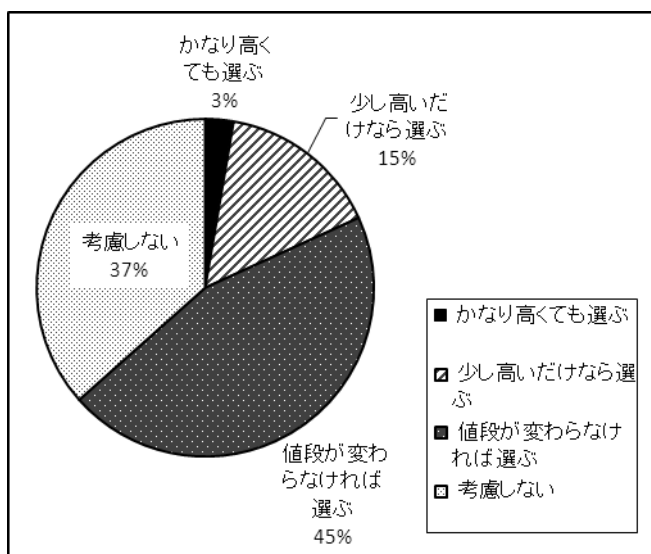
◇ 8 環境保全や労働条件の改善、社会問題に対する取り組み、経営の体制や方針などについて、報告書を公表している企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	かなり高くても選ぶ	157	3.4%	81	3.4%	76	3.3%
2	少し高いだけなら選ぶ	986	21.1%	468	19.7%	518	22.4%
3	値段が変わらなければ選ぶ	2,309	49.4%	1,170	49.4%	1,139	49.4%
4	考慮しない	1,226	26.2%	651	27.5%	575	24.9%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



◇ 9 社会の公器としての役割を自覚し、社外取締役を重視する企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	かなり高くても選ぶ	126	2.7%	74	3.1%	52	2.3%
2	少し高いただけなら選ぶ	725	15.5%	366	15.4%	359	15.6%
3	値段が変わらなければ選ぶ	2,117	45.3%	1,063	44.9%	1,054	45.7%
4	考慮しない	1,710	36.6%	867	36.6%	843	36.5%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%

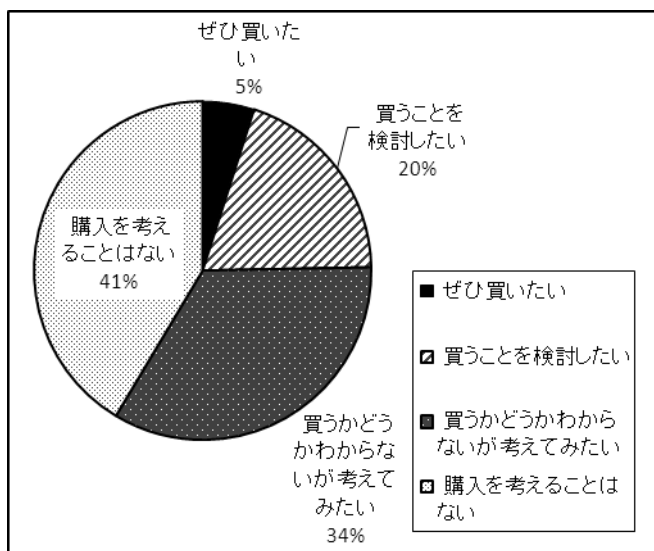


問4 環境や社会問題への対応に熱心に取り組む企業の株式や社債を購入することも、その企業を支援することにつながります。もし、あなたにお金があるとすると、次のような企業の株式や社債を買いたいと思いますか。項目ごとに、あなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。

(項目ごとに、「1. ぜひ買いたい」、「2. 買うことを検討したい」、「3. 買うかどうかわからないが考えてみたい」、「4. この情報があるからといって株式や社債の購入を考えることはない」の中から単一回答)

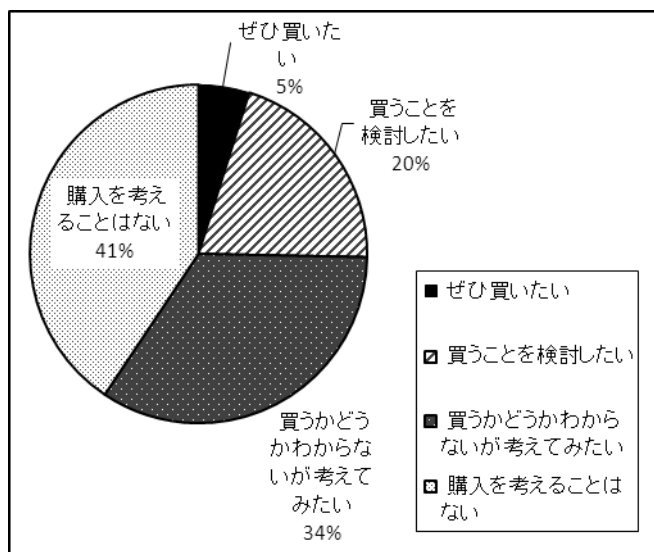
◇ 1 大気中への二酸化炭素の排出を抑制する努力をしている企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	ぜひ買いたい	230	4.9%	112	4.7%	118	5.1%
2	買うことを検討したい	925	19.8%	472	19.9%	453	19.6%
3	買うかどうかかわからないが考えてみたい	1,585	33.9%	778	32.8%	807	35.0%
4	購入を考えることはしない	1,938	41.4%	1,008	42.5%	930	40.3%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



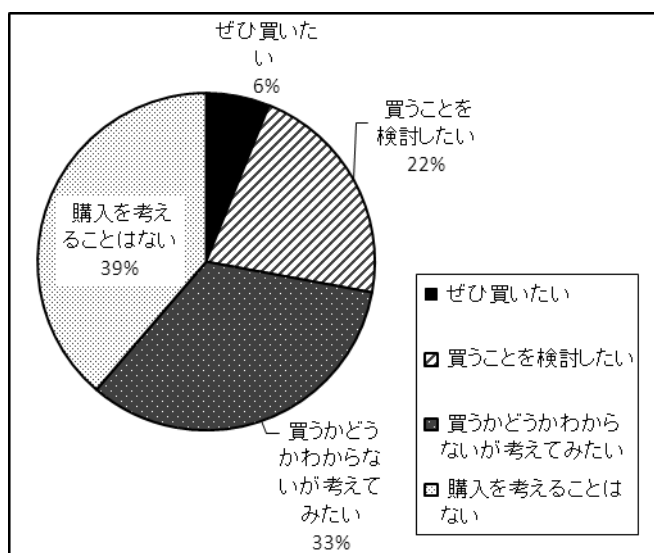
◇ 2 産業廃棄物の排出を極力減らす努力をしている企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	ぜひ買いたい	227	4.9%	107	4.5%	120	5.2%
2	買うことを検討したい	957	20.5%	490	20.7%	467	20.2%
3	買うかどうかかわからないが考えてみたい	1,593	34.1%	798	33.7%	795	34.4%
4	購入を考えることはしない	1,901	40.6%	975	41.1%	926	40.1%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



◇ 3 省エネやリサイクルを重視するなど、環境に及ぼす影響が少ない製品を提供している企業

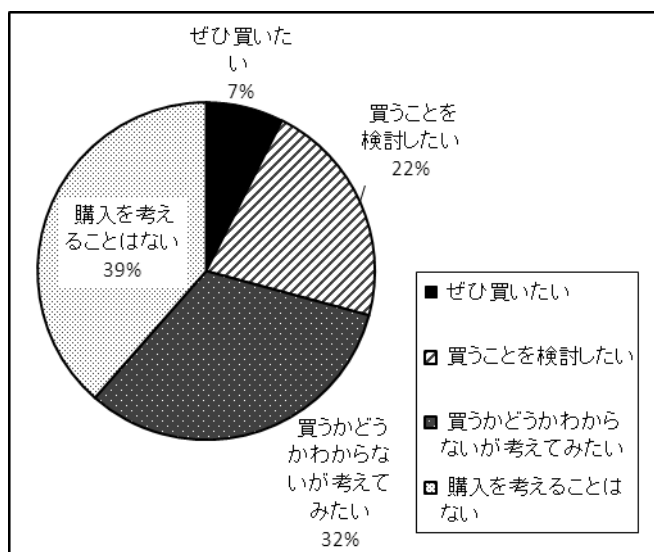
		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	ぜひ買いたい	285	6.1%	138	5.8%	147	6.4%
2	買うことを検討したい	1,021	21.8%	508	21.4%	513	22.2%
3	買うかどうかかわからないが考えてみたい	1,561	33.4%	792	33.4%	769	33.3%
4	購入を考慮することはない	1,811	38.7%	932	39.3%	879	38.1%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



◇ 4 使う側の利便を考えた製品開発に努力し、苦情に対しては消費者の立場に立った対

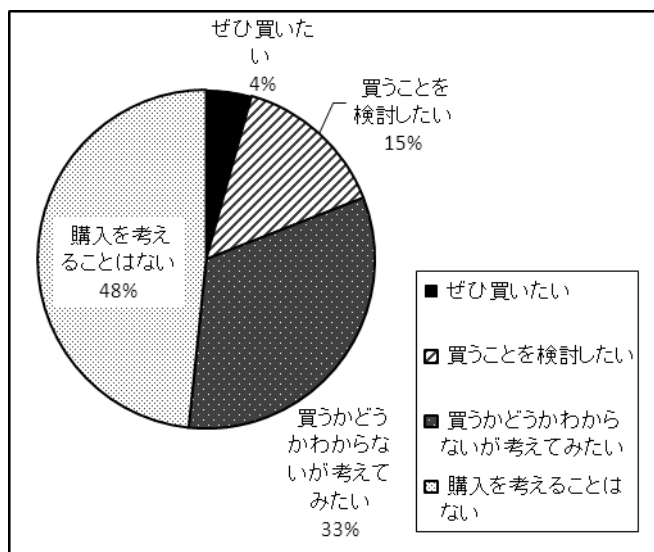
応をする企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	ぜひ買いたい	348	7.4%	182	7.7%	166	7.2%
2	買うことを検討したい	1,019	21.8%	538	22.7%	481	20.8%
3	買うかどうかかわからないが考えてみたい	1,509	32.3%	734	31.0%	775	33.6%
4	購入を考えるとはない	1,802	38.5%	916	38.6%	886	38.4%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



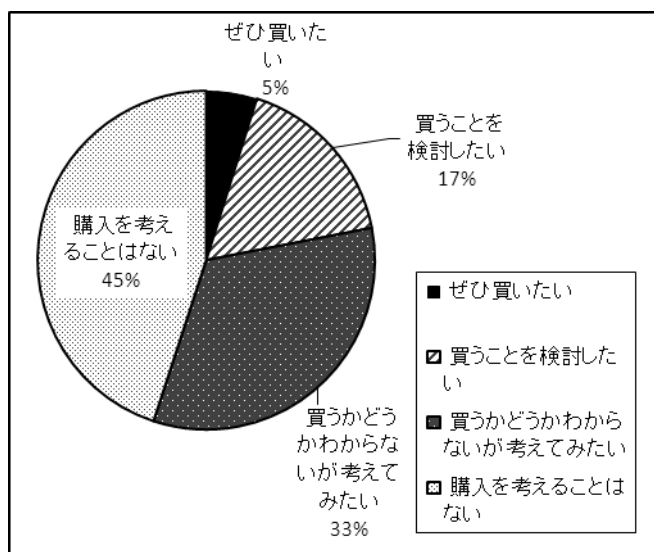
◇ 5 育児休業を取りやすくするなど女性も働きやすい職場環境を整える努力をしている企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	ぜひ買いたい	202	4.3%	73	3.1%	129	5.6%
2	買うことを検討したい	690	14.7%	330	13.9%	360	15.6%
3	買うかどうかかわからないが考えてみたい	1,525	32.6%	794	33.5%	731	31.7%
4	購入を考えるとはない	2,261	48.3%	1,173	49.5%	1,088	47.1%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



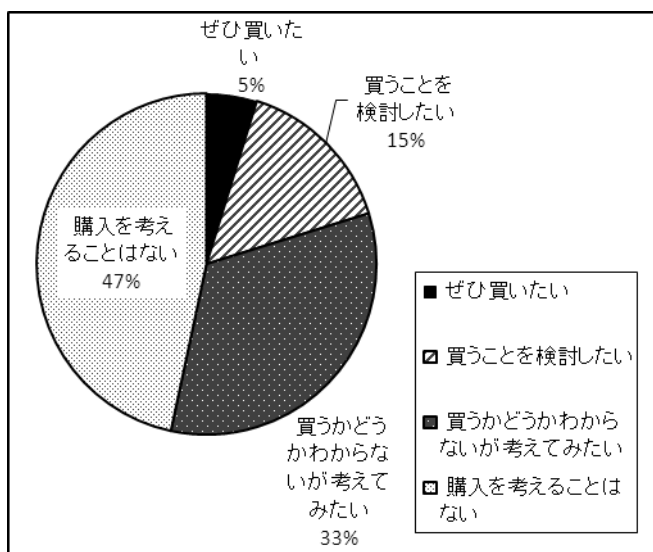
◇ 6 自社だけでなく取引先（海外の取引先を含みます。）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件が持ち込まれないよう努力している企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	ぜひ買いたい	226	4.8%	95	4.0%	131	5.7%
2	買うことを検討したい	800	17.1%	403	17.0%	397	17.2%
3	買うかどうかかわからないが考えてみたい	1,549	33.1%	776	32.7%	773	33.5%
4	購入を考慮することはない	2,103	45.0%	1,096	46.2%	1,007	43.6%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



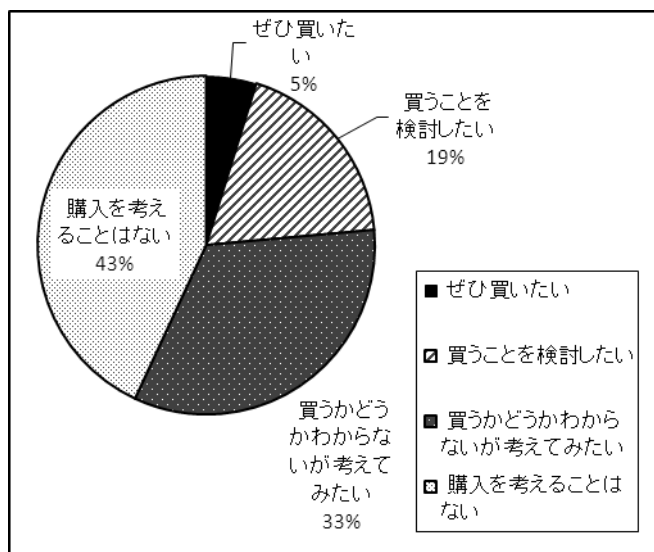
◇ 7 発展途上国での取引で、役人からいろいろを要求されても毅然として応じない企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	ぜひ買いたい	223	4.8%	101	4.3%	122	5.3%
2	買うことを検討したい	721	15.4%	363	15.3%	358	15.5%
3	買うかどうかかわからないが考えてみたい	1,552	33.2%	780	32.9%	772	33.4%
4	購入を考えるとはない	2,182	46.6%	1,126	47.5%	1,056	45.8%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



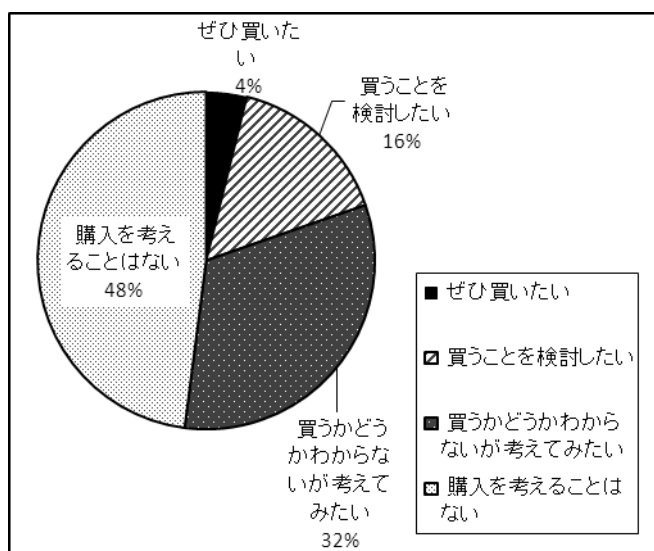
◇ 8 環境保全や労働条件の改善、社会問題に対する取り組み、経営の体制や方針などについて、報告書を公表している企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	ぜひ買いたい	224	4.8%	108	4.6%	116	5.0%
2	買うことを検討したい	878	18.8%	461	19.5%	417	18.1%
3	買うかどうかかわからないが考えてみたい	1,561	33.4%	764	32.2%	797	34.5%
4	購入を考えるとはない	2,015	43.1%	1,037	43.8%	978	42.4%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



◇ 9 社会の公器としての役割を自覚し、社外取締役を重視する企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	ぜひ買いたい	181	3.9%	103	4.3%	78	3.4%
2	買うことを検討したい	739	15.8%	372	15.7%	367	15.9%
3	買うかどうかかわからないが考えてみたい	1,515	32.4%	767	32.4%	748	32.4%
4	購入を考慮することはない	2,243	47.9%	1,128	47.6%	1,115	48.3%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



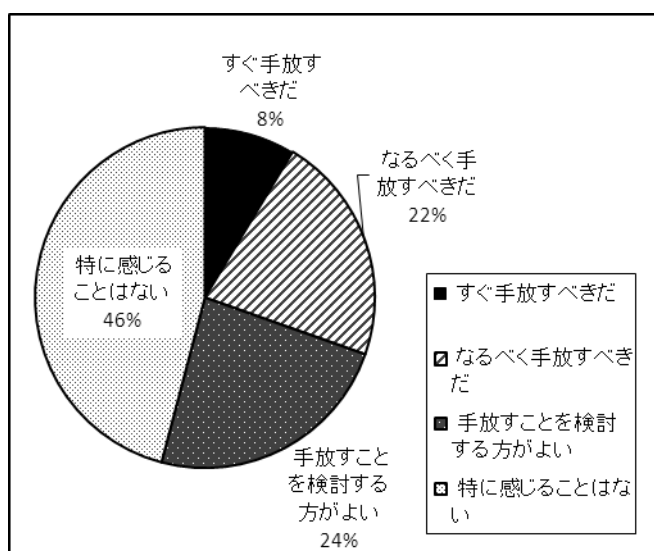
問 5 あなたかあなたの親族もしくはあなたの親しい友人が、次のような企業の株式か社債

を持っているとすると、どのように感じるといいますか。項目ごとに、あなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。

(項目ごとに、「1. 損益にかかわらず、すぐ手放すべきだ」、「2. 損益にもよるが、なるべく手放すべきだ」、「3. 手放すことを検討する方がよい」、「4. この情報があるからといって株式や社債に関して特に感じることはない」の中から単一回答)

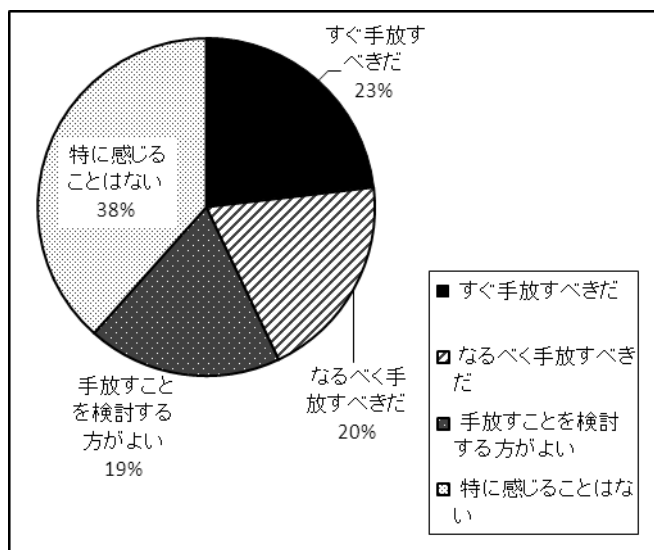
◇ 1 大気中への二酸化炭素の排出を抑制する努力をまったくしない企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	すぐ手放すべきだ	403	8.6%	188	7.9%	215	9.3%
2	なるべく手放すべきだ	1,020	21.8%	486	20.5%	534	23.1%
3	手放すことを検討する方がよい	1,108	23.7%	529	22.3%	579	25.1%
4	特に感じることはない	2,147	45.9%	1,167	49.2%	980	42.5%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



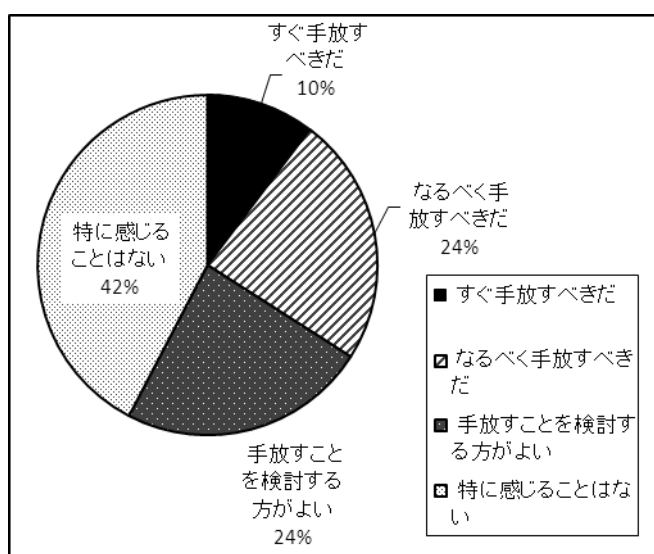
◇ 2 産業廃棄物の不法投棄をしている企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	すぐ手放すべきだ	1,082	23.1%	525	22.2%	557	24.1%
2	なるべく手放すべきだ	927	19.8%	449	18.9%	478	20.7%
3	手放すことを検討する方がよい	872	18.6%	426	18.0%	446	19.3%
4	特に感じることはない	1,797	38.4%	970	40.9%	827	35.8%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



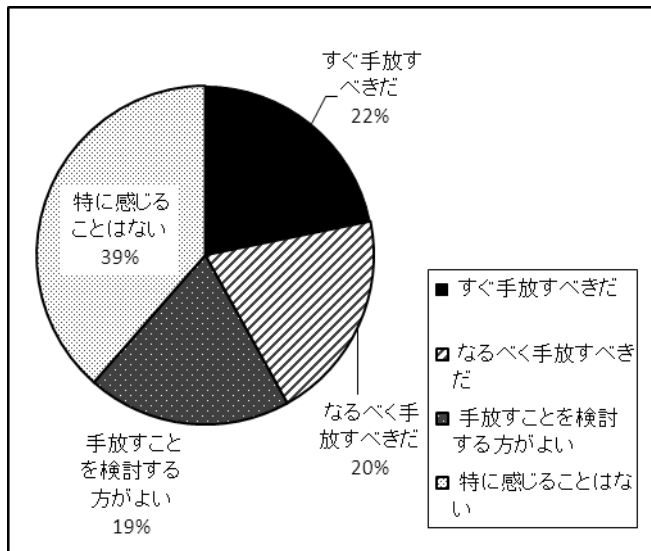
◇ 3 製品の製造や製品自体がエネルギー多消費や使い捨てであるなど、環境への配慮が後回しになっている企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	すぐ手放すべきだ	481	10.3%	231	9.7%	250	10.8%
2	なるべく手放すべきだ	1,112	23.8%	530	22.4%	582	25.2%
3	手放すことを検討する方がよい	1,104	23.6%	549	23.2%	555	24.0%
4	特に感じることはない	1,981	42.3%	1,060	44.7%	921	39.9%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



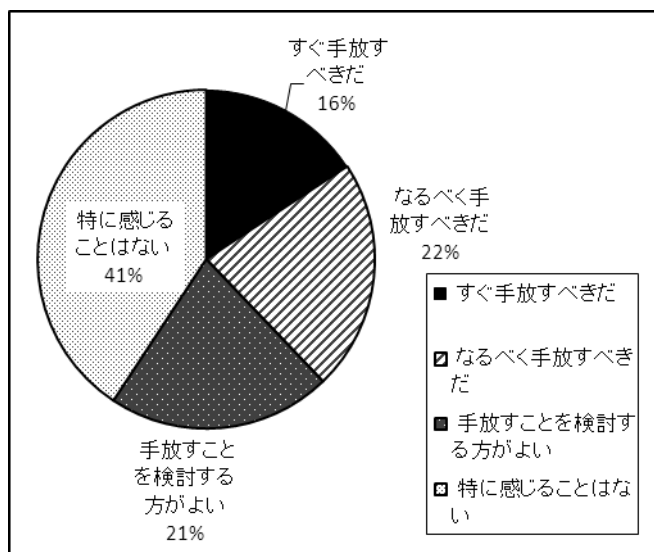
◇ 4 使う側のことをあまり考えないで製品開発し、苦情に対しては責任逃れの姿勢を貫く企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	すぐ手放すべきだ	1,019	21.8%	500	21.1%	519	22.5%
2	なるべく手放すべきだ	943	20.2%	451	19.0%	492	21.3%
3	手放すことを検討する方がよい	913	19.5%	444	18.7%	469	20.3%
4	特に感じることはない	1,803	38.5%	975	41.1%	828	35.9%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



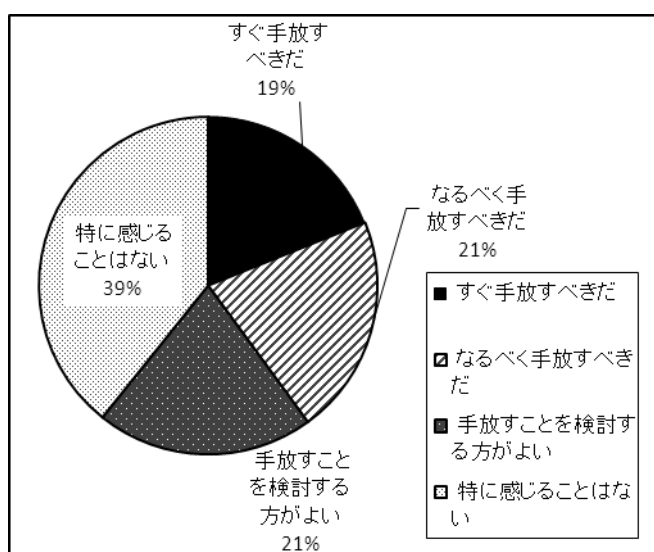
◇ 5 サービス残業が日常化し労働災害も時々生じている企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	すぐ手放すべきだ	736	15.7%	355	15.0%	381	16.5%
2	なるべく手放すべきだ	1,035	22.1%	511	21.6%	524	22.7%
3	手放すことを検討する方がよい	1,001	21.4%	472	19.9%	529	22.9%
4	特に感じることはない	1,906	40.7%	1,032	43.5%	874	37.9%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



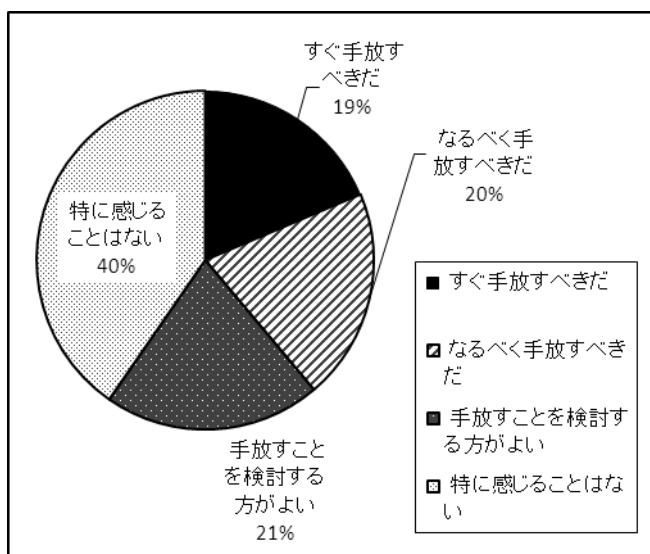
◇ 6 取引先（海外の取引先を含みます。）で、児童労働など人権を無視した劣悪な労働条件があっても、自社とは関係がないとして平然としている企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	すぐ手放すべきだ	885	18.9%	411	17.3%	474	20.5%
2	なるべく手放すべきだ	984	21.0%	495	20.9%	489	21.2%
3	手放すことを検討する方がよい	974	20.8%	472	19.9%	502	21.8%
4	特に感じることはない	1,835	39.2%	992	41.9%	843	36.5%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



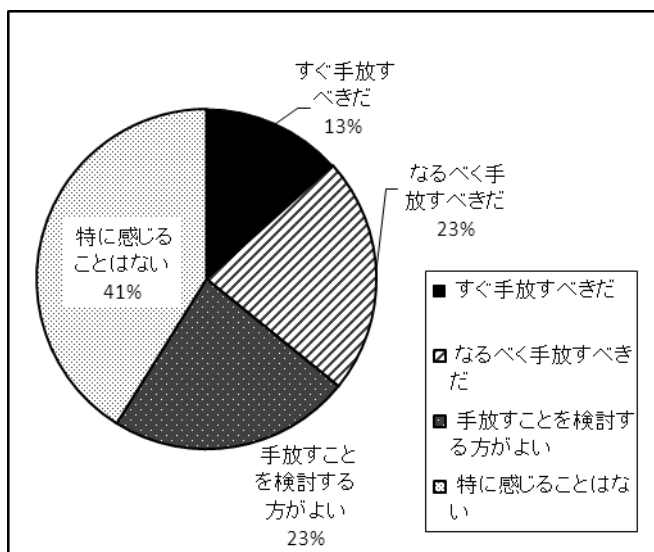
◇ 7 発展途上国での取引で、役人にわいろを贈って有利な条件を得ている企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	すぐ手放すべきだ	871	18.6%	411	17.3%	460	19.9%
2	なるべく手放すべきだ	948	20.3%	468	19.7%	480	20.8%
3	手放すことを検討する方がよい	970	20.7%	470	19.8%	500	21.7%
4	特に感じることはない	1,889	40.4%	1,021	43.1%	868	37.6%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



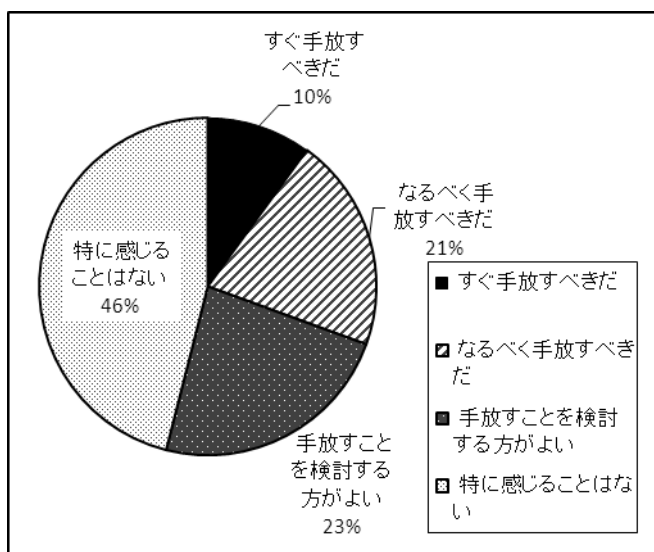
◇ 8 環境保全や社会問題に対する取り組みの必要性について、認識がない企業

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	すぐ手放すべきだ	624	13.3%	294	12.4%	330	14.3%
2	なるべく手放すべきだ	1,053	22.5%	513	21.6%	540	23.4%
3	手放すことを検討する方がよい	1,077	23.0%	515	21.7%	562	24.4%
4	特に感じることはない	1,924	41.1%	1,048	44.2%	876	38.0%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



◇ 9 社外取締役は置かないか、置いても形だけの企業

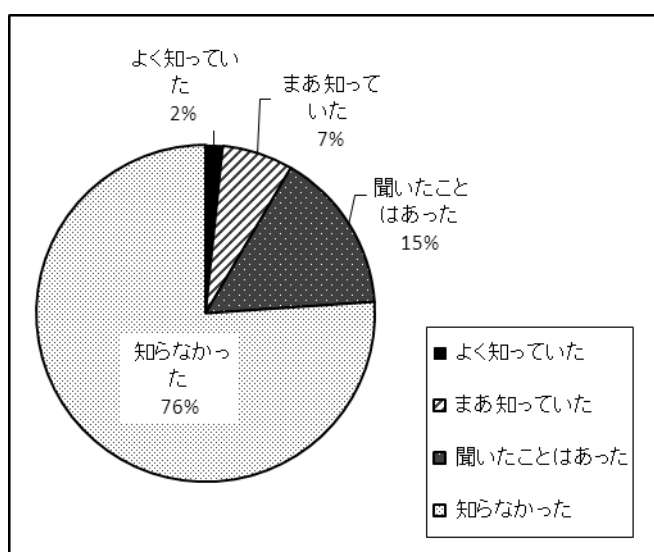
		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	すぐ手放すべきだ	468	10.0%	231	9.7%	237	10.3%
2	なるべく手放すべきだ	962	20.6%	436	18.4%	526	22.8%
3	手放すことを検討する方がよい	1,095	23.4%	543	22.9%	552	23.9%
4	特に感じることはない	2,153	46.0%	1,160	48.9%	993	43.0%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



問 6 これまでお答えいただいたような、様々な環境(Environment)や社会(Social)問題、企業の統治(Governance)を考慮して投資を行うことを、それぞれの英語の頭文字をとって、ESG 投資と呼びます。社会問題に重点を置く場合には、社会的責任投資(Socially Responsible Investment、頭文字をとって「SRI」)とも呼びます。また、これらに取り組む企業の責任を、企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility、頭文字をとって「CSR」)と呼びます。あなたは、これらの意味を、それぞれの程度知っていましたか。(項目ごとに「1. よく知っていた」、「2. まあ知っていた」、「3. 言葉は聞いたことがあった」、「4. 知らなかった」の中から単一回答)

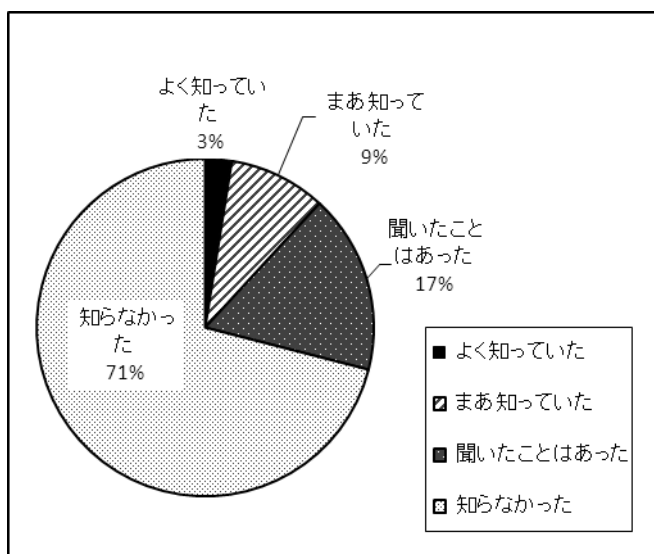
◇ 1 環境・社会・企業の統治（ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	よく知っていた	76	1.6%	53	2.2%	23	1.0%
2	まあ知っていた	318	6.8%	212	8.9%	106	4.6%
3	聞いたことはあった	725	15.5%	433	18.3%	292	12.7%
4	知らなかった	3,559	76.1%	1,672	70.5%	1,887	81.8%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



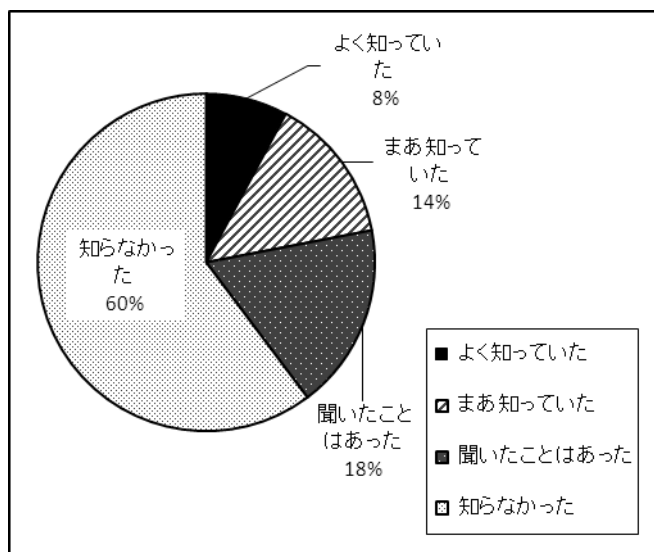
◇ 2 社会的責任投資(SRI)

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	よく知っていた	118	2.5%	95	4.0%	23	1.0%
2	まあ知っていた	436	9.3%	274	11.6%	162	7.0%
3	聞いたことはあった	803	17.2%	486	20.5%	317	13.7%
4	知らなかった	3,321	71.0%	1,515	63.9%	1,806	78.2%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



◇ 3 企業の社会的責任(CSR)

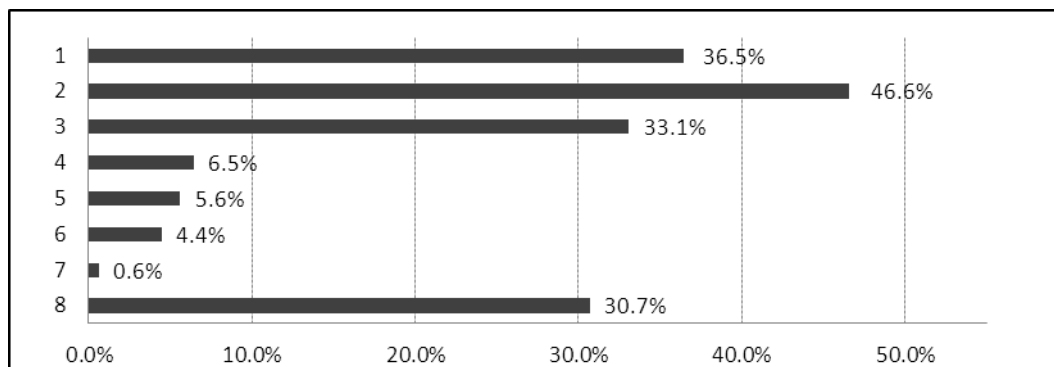
		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	よく知っていた	366	7.8%	265	11.2%	101	4.4%
2	まあ知っていた	661	14.1%	435	18.4%	226	9.8%
3	聞いたことはあった	833	17.8%	474	20.0%	359	15.6%
4	知らなかった	2,818	60.2%	1,196	50.5%	1,622	70.3%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



問 7 環境や社会問題などに関する企業の社会的責任(CSR)の取り組みについて、あなたはどのように考えますか。あなたのお考えに沿うものを選んでください。(複数回答)

1. CSR は企業経営が適切に行われるための基本であり、企業は率先して取り組むべきだ。
2. CSR に積極的に取り組んでいる企業には好感が持てる。
3. 多くの企業が CSR に取り組めば、経済全体の発展や成長にもつながる。
4. 企業は利益を追求することが目的なので、CSR は法令や規制の範囲でやればよい。
5. CSR は企業のイメージアップ活動に過ぎないので、特に評価する必要はない。
6. CSR に取り組む余裕があるなら、製品やサービスの価格を下げてほしい。
7. その他 ()
8. CSR についてはよくわからない。

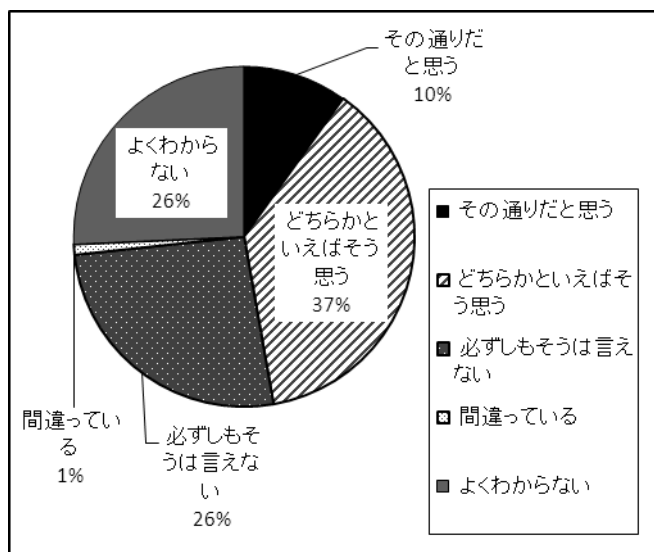
	全体		男性		女性	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	1,706	36.5%	909	38.4%	797	34.5%
2	2,178	46.6%	1,079	45.5%	1,099	47.6%
3	1,549	33.1%	705	29.7%	844	36.6%
4	302	6.5%	191	8.1%	111	4.8%
5	262	5.6%	158	6.7%	104	4.5%
6	208	4.4%	123	5.2%	85	3.7%
7	29	0.6%	15	0.6%	14	0.6%
8	1,437	30.7%	667	28.1%	770	33.4%
合計	4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



問8 これまでお答えいただいたような、環境や社会、企業の統治（ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)については、比較的新しい手法であることもあって、他の投資手法に比べて投資成績が良いかどうかまだよくわかっていません。しかし、環境や社会問題などに取り組む優良企業に投資し、あるいは、それらに後ろ向きな企業には投資しないことによって、長期的な投資成績は良くなるはずであるという考えがあります。あなたはどのように思いますか。（単一回答）

1. その通りだと思う 2. どちらかといえばそう思う 3. 必ずしもそうは言えないと思う 4. 間違っていると思う 5. 投資のことはよくわからない

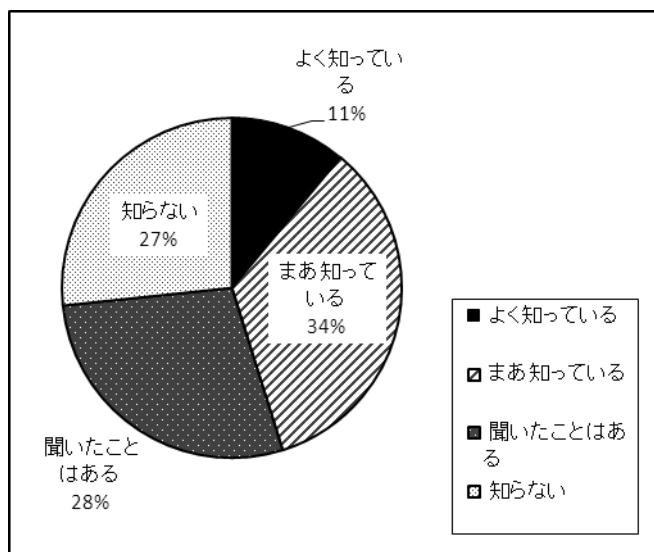
		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	その通りだと思う	463	9.9%	249	10.5%	214	9.3%
2	どちらかといえばそう思う	1,746	37.3%	854	36.0%	892	38.6%
3	必ずしもそうは言えない	1,220	26.1%	714	30.1%	506	21.9%
4	間違っている	46	1.0%	34	1.4%	12	0.5%
5	よくわからない	1,203	25.7%	519	21.9%	684	29.6%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



問9 あなたは、あなたや家族が払う公的年金の保険料の一部が積み立てられ、株式や債券などに投資されて運用されることをどの程度ご存知ですか。（単一回答）

1. よく知っている 2. まあ知っている 3. 聞いたことはある 4. 知らない

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	よく知っている	516	11.0%	341	14.4%	175	7.6%
2	まあ知っている	1,597	34.1%	949	40.0%	648	28.1%
3	聞いたことはある	1,318	28.2%	607	25.6%	711	30.8%
4	知らない	1,247	26.7%	473	20.0%	774	33.5%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%

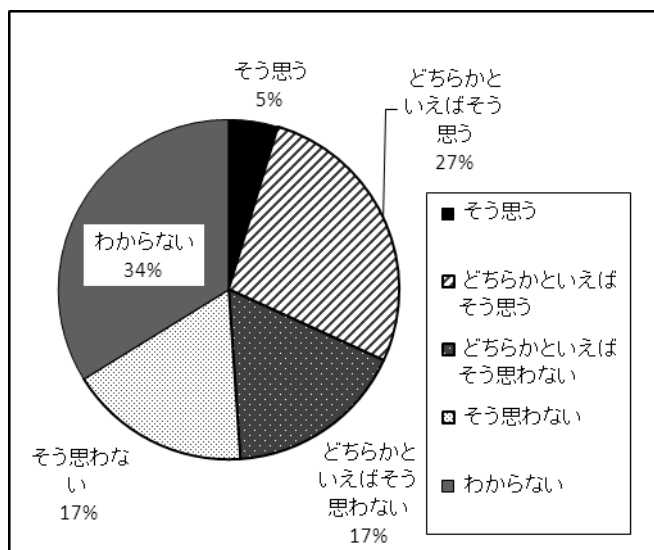


問 10 あなたや家族が払った保険料の一部も含まれる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治（ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をするかどうかについて、おうかがいします。あなたは、次のような考え方をどう思いますか。それぞれについて、あなたのお考えに沿うものを選んでください。

(項目ごとに、「1. そう思う」、「2. どちらかといえばそう思う」、「3. どちらかといえばそう思わない」、「4. 「そう思わない」、「5. わからない」の中から単一回答)

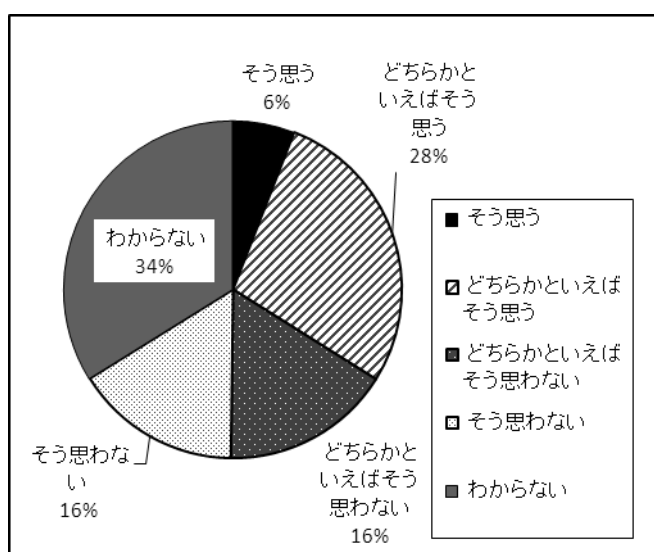
◇ 1 自分や家族の払った保険料を環境や社会問題などの取り組みにも役立てられるよう、公的年金の積立金で、ESG 投資をすべきだ。

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	そう思う	219	4.7%	109	4.6%	110	4.8%
2	どちらかといえばそう思う	1,270	27.1%	711	30.0%	559	24.2%
3	どちらかといえばそう思わない	799	17.1%	417	17.6%	382	16.6%
4	そう思わない	809	17.3%	443	18.7%	366	15.9%
5	わからない	1,581	33.8%	690	29.1%	891	38.6%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



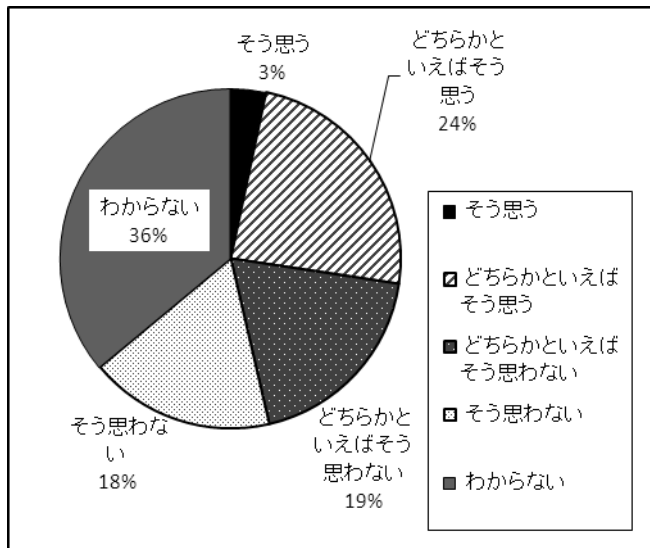
◇ 2 自分や家族の払った保険料は、環境や社会問題などに後ろ向きの企業に投資しないよう、公的年金の積立金で、ESG 投資をすべきだ。

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	そう思う	276	5.9%	136	5.7%	140	6.1%
2	どちらかといえばそう思う	1,311	28.0%	726	30.6%	585	25.3%
3	どちらかといえばそう思わない	762	16.3%	406	17.1%	356	15.4%
4	そう思わない	746	15.9%	417	17.6%	329	14.3%
5	わからない	1,583	33.8%	685	28.9%	898	38.9%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



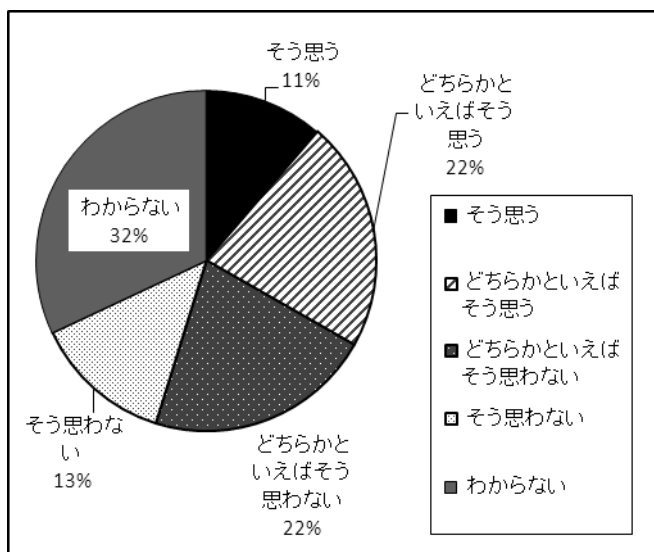
◇ 3 環境や社会問題などで投資先を選択することは経済的に合理的だと思うので、公的年金の積立金で、ESG 投資をすべきだ。

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	そう思う	156	3.3%	81	3.4%	75	3.2%
2	どちらかといえばそう思う	1,125	24.0%	628	26.5%	497	21.5%
3	どちらかといえばそう思わない	888	19.0%	466	19.7%	422	18.3%
4	そう思わない	824	17.6%	468	19.7%	356	15.4%
5	わからない	1,685	36.0%	727	30.7%	958	41.5%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



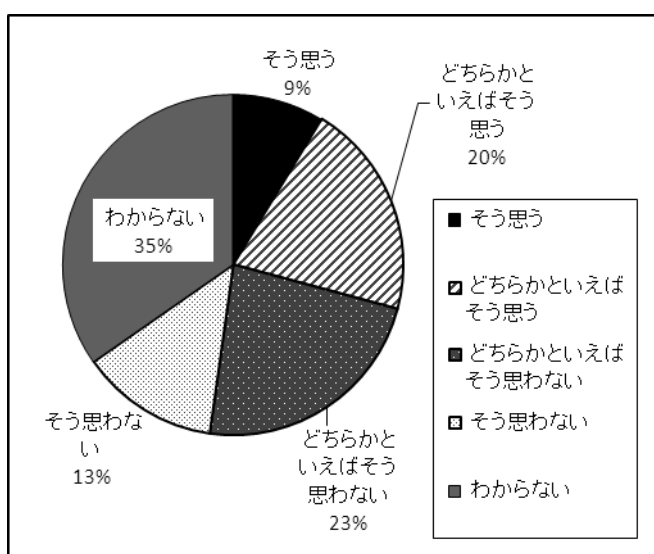
◇ 4 年金の保険料は将来の年金の支払いのためだけを考慮して運用すべきであり、環境や社会問題などを考える ESG 投資は、これに関係がないので、公的年金の積立金ではすべきではない。

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	そう思う	529	11.3%	251	10.6%	278	12.0%
2	どちらかといえばそう思う	1,026	21.9%	540	22.8%	486	21.1%
3	どちらかといえばそう思わない	1,009	21.6%	538	22.7%	471	20.4%
4	そう思わない	618	13.2%	375	15.8%	243	10.5%
5	わからない	1,496	32.0%	666	28.1%	830	36.0%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



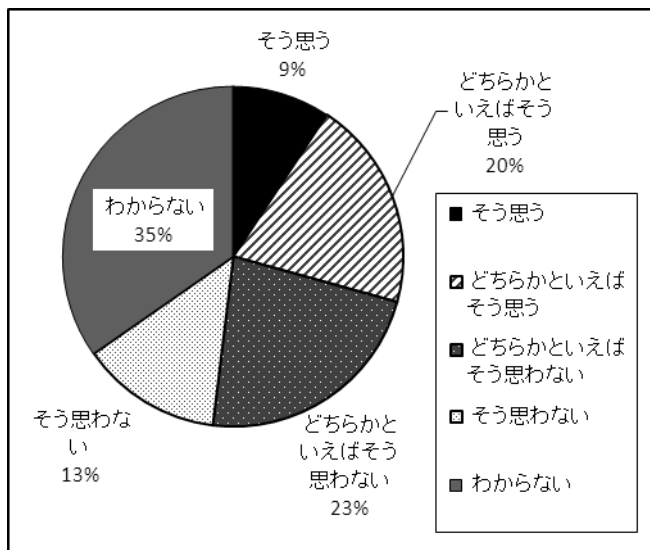
◇ 5 環境や社会問題などで投資先を選定することは投資成績に結びつかないと思うので、
 公的年金の積立金で ESG 投資はすべきではない。

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	そう思う	406	8.7%	205	8.6%	201	8.7%
2	どちらかといえばそう思う	960	20.5%	512	21.6%	448	19.4%
3	どちらかといえばそう思わない	1,077	23.0%	575	24.3%	502	21.8%
4	そう思わない	613	13.1%	371	15.7%	242	10.5%
5	わからない	1,622	34.7%	707	29.8%	915	39.6%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



◇ 6 公的な資金は企業経営に影響を与えるべきではないので、公的年金の積立金で ESG 投資はすべきではない。

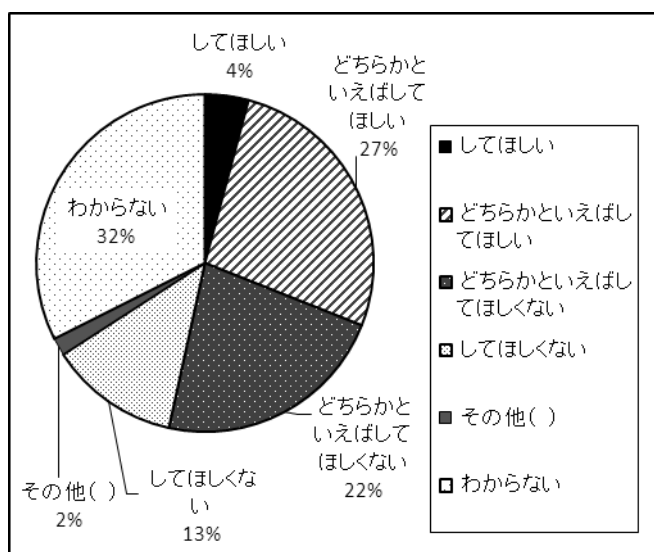
		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	そう思う	434	9.3%	206	8.7%	228	9.9%
2	どちらかといえばそう思う	937	20.0%	484	20.4%	453	19.6%
3	どちらかといえばそう思わない	1,059	22.6%	589	24.9%	470	20.4%
4	そう思わない	626	13.4%	379	16.0%	247	10.7%
5	わからない	1,622	34.7%	712	30.0%	910	39.4%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



問 11 あなたは、あなたや家族が払った保険料の一部が積み立てられ、将来受け取る年金の財源になる公的年金の積立金で、環境や社会、企業の統治（ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。（単一回答）

1. してほしい
2. どちらかといえばしてほしい
3. どちらかといえばしてほしくない
4. してほしくない
5. その他（ ）
6. わからない

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	してほしい	195	4.2%	115	4.9%	80	3.5%
2	どちらかといえばしてほしい	1,256	26.8%	727	30.7%	529	22.9%
3	どちらかといえばしてほしくない	1,049	22.4%	488	20.6%	561	24.3%
4	してほしくない	582	12.4%	283	11.9%	299	13.0%
5	その他()	80	1.7%	46	1.9%	34	1.5%
6	わからない	1,516	32.4%	711	30.0%	805	34.9%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%

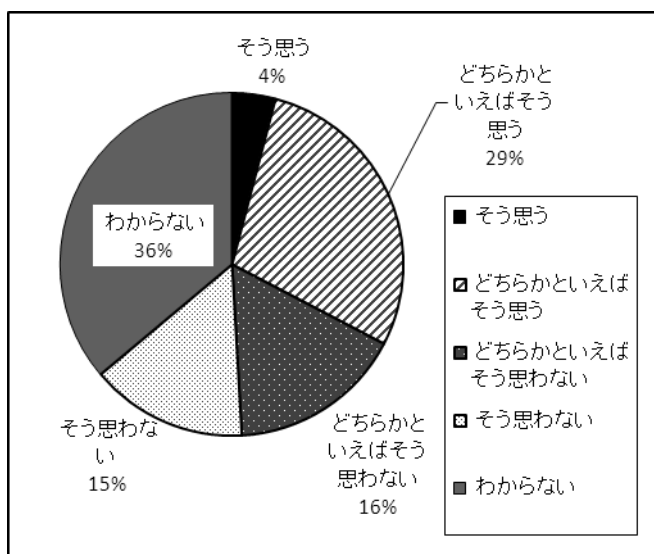


問 12 公的年金だけでなく、企業の中にも従業員のために独自の企業年金を実施するところがあります。企業年金も法律に基づく年金の仕組みの 1 つです。企業年金で、環境や社会、企業の統治（ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をするかどうかについて、次のような考え方をどう思いますか。それぞれについて、あなたのお考えに沿うものを選んでください。

(項目ごとに、「1. そう思う」、「2. どちらかといえばそう思う」、「3. どちらかといえばそう思わない」、「4. そう思わない」、「5. わからない」の中から単一回答)

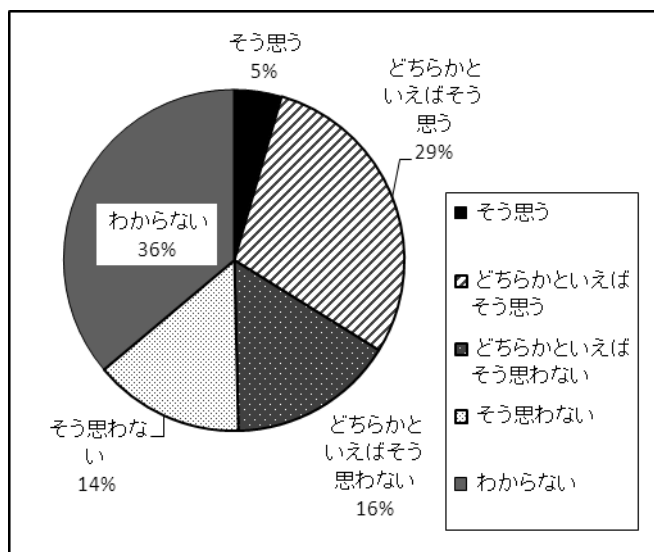
◇ 1 企業年金でも環境や社会問題などの取り組みを支援するため、ESG 投資をすべきだ。

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	そう思う	191	4.1%	106	4.5%	85	3.7%
2	どちらかといえばそう思う	1,337	28.6%	717	30.3%	620	26.9%
3	どちらかといえばそう思わない	769	16.4%	407	17.2%	362	15.7%
4	そう思わない	693	14.8%	404	17.0%	289	12.5%
5	わからない	1,688	36.1%	736	31.1%	952	41.2%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



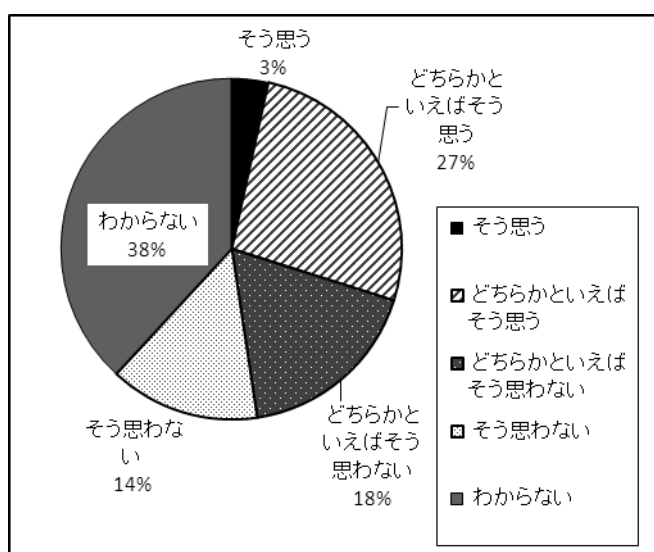
◇ 2 企業年金の資金が環境や社会問題などに後ろ向きの企業に投資されないよう、ESG投資をすべきだ。

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	そう思う	209	4.5%	118	5.0%	91	3.9%
2	どちらかといえばそう思う	1,375	29.4%	742	31.3%	633	27.4%
3	どちらかといえばそう思わない	738	15.8%	401	16.9%	337	14.6%
4	そう思わない	667	14.3%	385	16.2%	282	12.2%
5	わからない	1,689	36.1%	724	30.5%	965	41.8%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



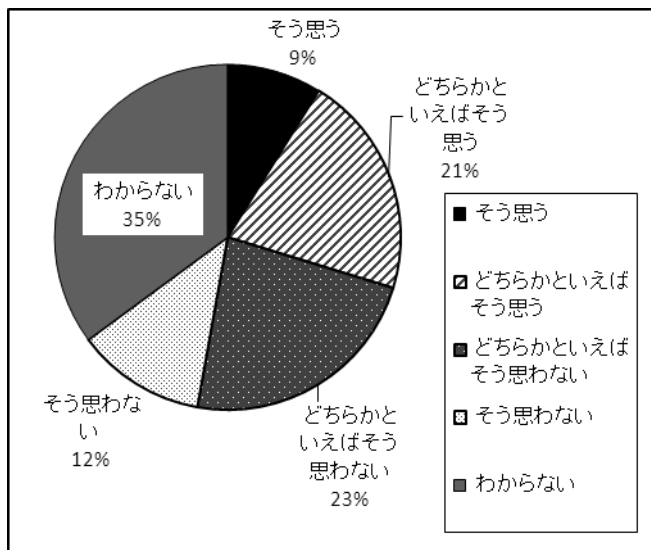
◇ 3 環境や社会問題などで投資先を選択することは経済的に合理的だと思うので、ESG投資をすべきだ。

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	そう思う	161	3.4%	94	4.0%	67	2.9%
2	どちらかといえばそう思う	1,238	26.5%	685	28.9%	553	24.0%
3	どちらかといえばそう思わない	829	17.7%	441	18.6%	388	16.8%
4	そう思わない	666	14.2%	381	16.1%	285	12.3%
5	わからない	1,784	38.1%	769	32.4%	1,015	44.0%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



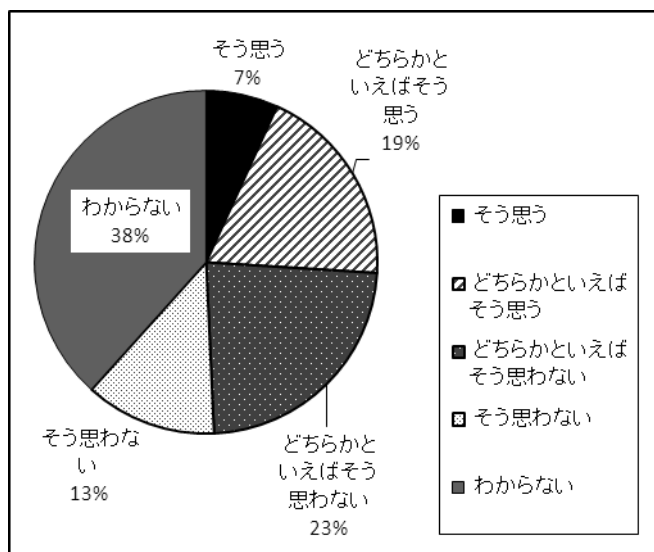
◇ 4 年金の保険料は将来の年金の支払いのためだけを考えて運用すべきであり、環境や社会問題などを考える ESG 投資は、これに関係がないので、すべきではない。

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	そう思う	414	8.8%	217	9.2%	197	8.5%
2	どちらかといえばそう思う	977	20.9%	530	22.4%	447	19.4%
3	どちらかといえばそう思わない	1,080	23.1%	572	24.1%	508	22.0%
4	そう思わない	566	12.1%	331	14.0%	235	10.2%
5	わからない	1,641	35.1%	720	30.4%	921	39.9%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



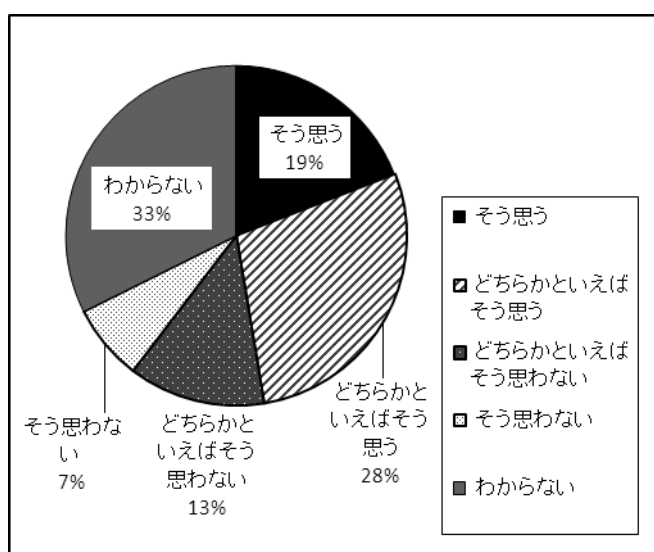
◇ 5 環境や社会問題などで投資先を選定することは投資成績に結びつかないと思うので、ESG 投資はすべきではない。

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	そう思う	318	6.8%	180	7.6%	138	6.0%
2	どちらかといえばそう思う	898	19.2%	497	21.0%	401	17.4%
3	どちらかといえばそう思わない	1,089	23.3%	591	24.9%	498	21.6%
4	そう思わない	580	12.4%	341	14.4%	239	10.4%
5	わからない	1,793	38.3%	761	32.1%	1,032	44.7%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



◇ 6 企業年金の積立金は、企業の労働者の老後の生活に充てられる資金なので、労働者の意見をよく聞いて決めるべきだ。

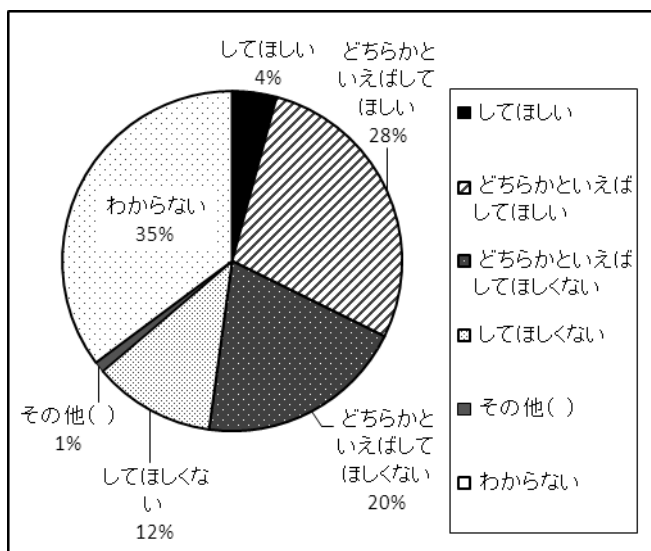
		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	そう思う	894	19.1%	390	16.5%	504	21.8%
2	どちらかといえばそう思う	1,322	28.3%	705	29.7%	617	26.7%
3	どちらかといえばそう思わない	609	13.0%	357	15.1%	252	10.9%
4	そう思わない	340	7.3%	232	9.8%	108	4.7%
5	わからない	1,513	32.3%	686	28.9%	827	35.8%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



問 13 あなたは、企業年金で、環境や社会、企業の統治（ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)をすることについて、どのように思いますか。（単一回答）

1. してほしい
2. どちらかといえばしてほしい
3. どちらかといえばしてほしくない
4. してほしくない
5. その他（ ）
6. わからない

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	してほしい	197	4.2%	120	5.1%	77	3.3%
2	どちらかといえばしてほしい	1,314	28.1%	741	31.3%	573	24.8%
3	どちらかといえばしてほしくない	930	19.9%	458	19.3%	472	20.5%
4	してほしくない	543	11.6%	288	12.2%	255	11.0%
5	その他（ ）	48	1.0%	28	1.2%	20	0.9%
6	わからない	1,646	35.2%	735	31.0%	911	39.5%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



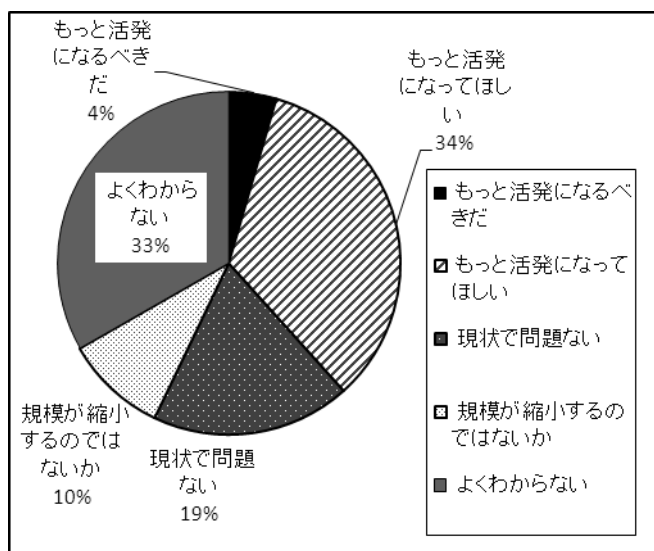
問 14 欧米では、環境や社会、企業の統治（ガバナンス）を考慮した投資(ESG 投資)は日本と比較にならないほど活発だといわれています。ある資料（※）によると、2007 年の ESG 投資の市場規模は、米国で 2 兆 7,110 億ドル（約 306 兆円）、欧州で 2 兆 6,654 億ユ

一口（約 344 兆円）に対し、日本は約 8,500 億円であり最近（2011 年 9 月）では 8,032 億円となっています。これをみて、あなたはこれからの日本の ESG 投資についてどのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものを 1 つ選んでください。（単一回答）

1. 欧米のように日本でも ESG 投資が活発になるべきだ。
2. 欧米に追随する必要はないが、もっと活発になってほしい。
3. 欧米と日本は違うので、現状で特に問題はない。
4. 最近の日本の状況などを考えると、規模が縮小するのではないか。
5. 投資のことはよくわからない。

※ 社会的責任投資フォーラム（SIF-Japan）のホームページで SRI の市場規模として掲載されているデータ。円換算には当時の為替レートが使用されています。

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	もっと活発になるべきだ	210	4.5%	122	5.1%	88	3.8%
2	もっと活発になってほしい	1,583	33.8%	867	36.6%	716	31.0%
3	現状で問題ない	879	18.8%	523	22.1%	356	15.4%
4	規模が縮小するのではないか	450	9.6%	211	8.9%	239	10.4%
5	よくわからない	1,556	33.3%	647	27.3%	909	39.4%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



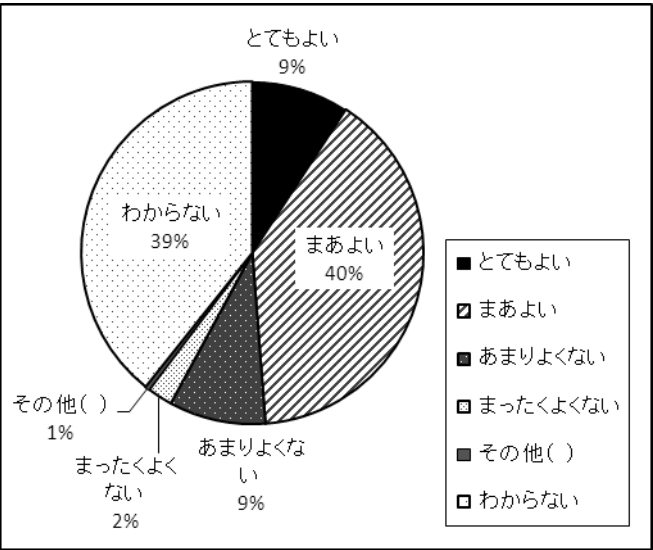
問 15 労働組合の連合(※)は、社会的責任に配慮した企業行動および金融取引をうながし、公正かつ持続可能な社会形成に貢献するため、2010 年 12 月に「ワーカーズキャピタル責

「責任投資ガイドライン」を策定しています。労働者が拠出した、ないしは労働者のために拠出された年金基金については、労働者（労働組合）はその所有者として、社会や環境に悪影響を及ぼす企業行動に加担する投資を排除し、公正な市場を確立する社会的責任を認識する必要があるという考え方です。あなたは、この考えや取組みをどのように思いますか。
（単一回答）

1. とてもよい
2. まあよい
3. あまりよくない
4. まったくよくない
5. その他（ ）
6. わからない

※ 「連合」は、「日本労働組合総連合会」の略称です。

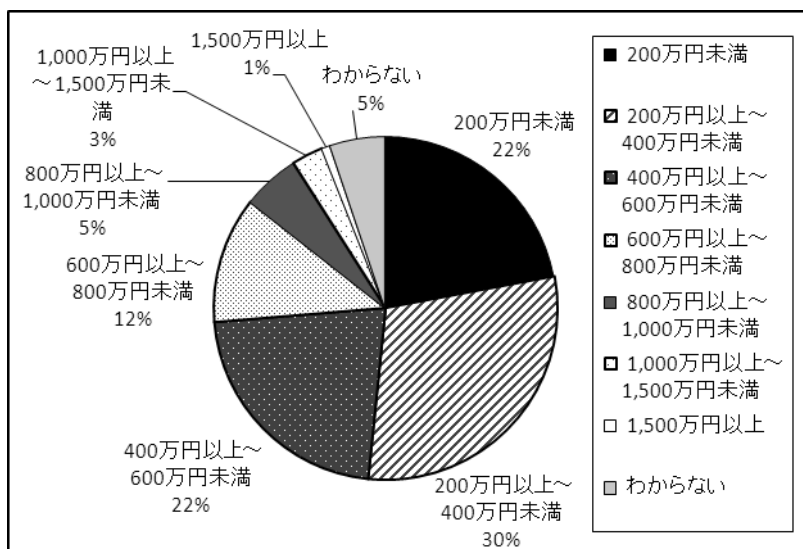
		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	とてもよい	430	9.2%	224	9.5%	206	8.9%
2	まあよい	1,852	39.6%	1,007	42.5%	845	36.6%
3	あまりよくない	427	9.1%	265	11.2%	162	7.0%
4	まったくよくない	111	2.4%	80	3.4%	31	1.3%
5	その他（ ）	20	0.4%	9	0.4%	11	0.5%
6	わからない	1,838	39.3%	785	33.1%	1,053	45.6%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



問 16 あなたの昨年の年収（税込）はいくらでしたか。（単一回答）

1. 200 万円未満
2. 200 万円以上～400 万円未満
3. 400 万円以上～600 万円未満
4. 600 万円以上～800 万円未満
5. 800 万円以上～1,000 万円未満
6. 1,000 万円以上～1,500 万円未満
7. 1,500 万円以上

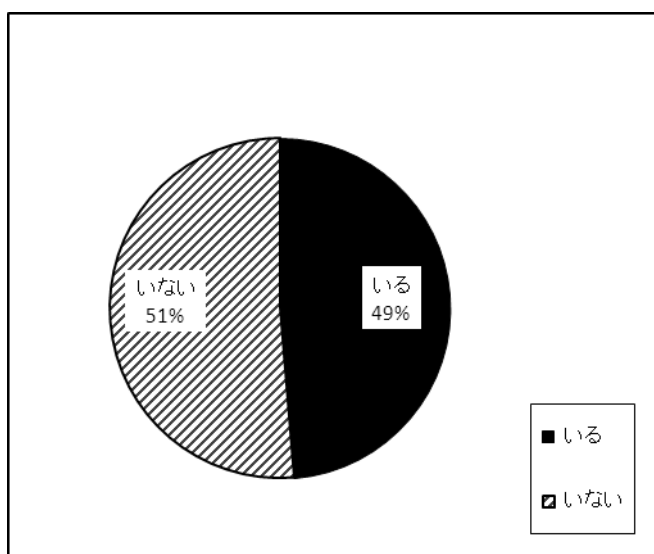
		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	200万円未満	1,031	22.0%	173	7.3%	858	37.2%
2	200万円以上～400万円未満	1,384	29.6%	604	25.5%	780	33.8%
3	400万円以上～600万円未満	1,032	22.1%	733	30.9%	299	13.0%
4	600万円以上～800万円未満	557	11.9%	428	18.1%	129	5.6%
5	800万円以上～1,000万円未満	252	5.4%	204	8.6%	48	2.1%
6	1,000万円以上～1,500万円未満	140	3.0%	114	4.8%	26	1.1%
7	1,500万円以上	38	0.8%	30	1.3%	8	0.3%
8	わからない	244	5.2%	84	3.5%	160	6.9%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



問 17 お子様はいらっしゃいますか。(単一回答)

1. いる
2. いない

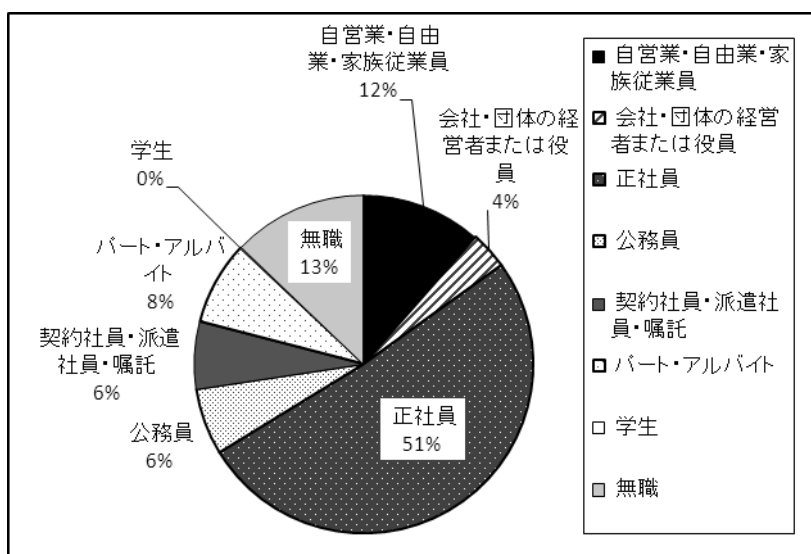
		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	いる	2,278	48.7%	1,183	49.9%	1,095	47.4%
2	いない	2,400	51.3%	1,187	50.1%	1,213	52.6%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



問 18 あなたのご職業についておうかがいします。次の中から最も当てはまるものを1つ選んでください。(単一回答)

1. 自営業・自由業・家族従業員
2. 会社・団体の経営者または役員
3. 正社員
4. 公務員
5. 契約社員・派遣社員
6. パート・アルバイト
7. 学生
8. 無職

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	自営業・自由業・家族従業員	537	11.5%	371	15.7%	166	7.2%
2	会社・団体の経営者または役員	169	3.6%	114	4.8%	55	2.4%
3	正社員	2,393	51.2%	1,502	63.4%	891	38.6%
4	公務員	298	6.4%	189	8.0%	109	4.7%
5	契約社員・派遣社員・嘱託	301	6.4%	102	4.3%	199	8.6%
6	パート・アルバイト	373	8.0%	44	1.9%	329	14.3%
7	学生	6	0.1%	5	0.2%	1	0.0%
8	無職	601	12.8%	43	1.8%	558	24.2%
合計		4,678	100.0%	2,370	100.0%	2,308	100.0%



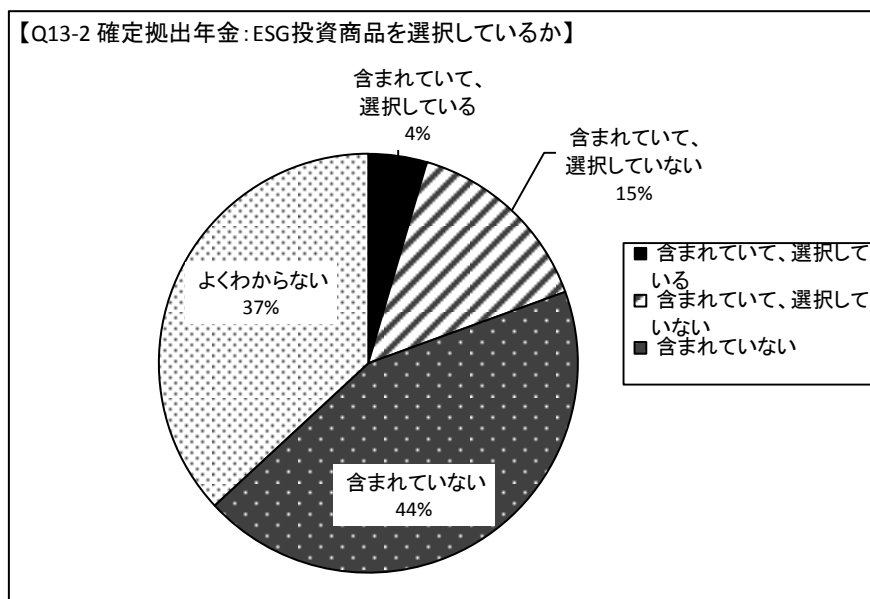
5 DC 加入者調査の集計結果

以下の問 13-2～問 13-6 は、「確定拠出年金に加入」の回答者のみを対象にしたものである。

問 13-2 あなたは確定拠出型の企業年金に加入しているとお答えですが、あなたが運用を指図することができる投資商品の中に、環境や社会、企業の統治（ガバナンス）を考慮した投資（それらには、「ESG」、「SRI」、「責任投資」、「サステナブル投資」などの名前がついている可能性があります）が含まれていますか。また、含まれている場合、あなたはそれを実際を選択していますか。（単一回答）

1. そのような商品が含まれており、実際に選択している。
2. そのような商品が含まれているが、選択はしていない。
3. そのような商品は含まれていないと思う。
4. よくわからない。

		全体		男性		女性	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	含まれていて、選択している	119	4.5%	75	4.5%	44	4.6%
2	含まれていて、選択していない	394	15.0%	272	16.2%	122	12.8%
3	含まれていない	1,150	43.6%	760	45.1%	390	41.0%
4	よくわからない	972	36.9%	577	34.3%	395	41.5%
合計		2,635	100.0%	1,684	100.0%	951	100.0%

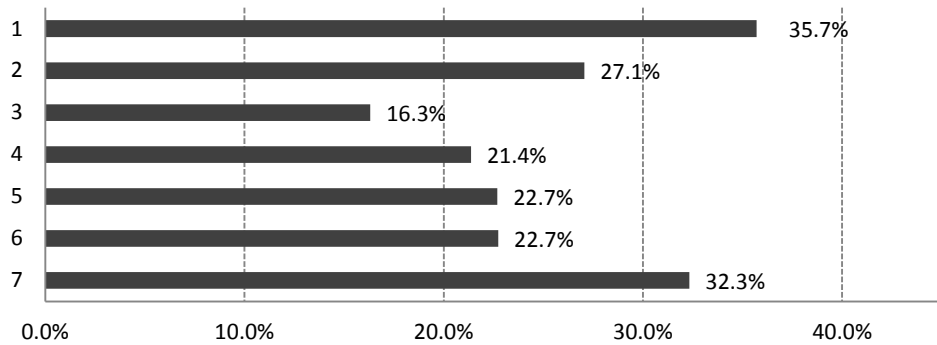


問 13-3 あなたの確定拠出年金のプランに下記のような商品があった場合、どの商品に投資したいと思いますか（カッコ内の商品名は、現時点で必ずしもすべてが確定拠出年金のプランで投資可能ではありませんが、一般の投資商品として個人が投資することができるものの一例です）。（複数回答）

1. 環境問題に積極的に取り組んでいる企業等を選択して投資する商品（エコファンド、温暖化対策関連ファンド、水資源関連ファンドなど）
2. 企業の社会的責任を積極的に推進している企業等を選択して投資する商品（グッドカンパニーファンド、社会的責任投資ファンドなど）
3. 女性、健康、雇用など特定の社会問題に積極的に取り組んでいる企業等を選択して投資する商品（健康応援ファンド、ウーマノミクス・ファンド、ファミリー・フレンドリー・ファンドなど）
4. 企業の経営体制の改革や経営情報の透明化などに積極的に取り組んでいる企業を選択して投資する商品（コーポレートガバナンスファンドなど）
5. 世界の環境対策を促進するために国際機関が発行する債券（グリーン債、エコロジー債、ウォーター債など）
6. 発展途上国の子供の医療や教育を促進するために国際機関が発行する債券（ワクチン債、教育債、子育て支援債など）
7. このような商品には投資したくない

	全体		男性		女性	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	941	35.7%	610	36.2%	331	34.8%
2	713	27.1%	467	27.7%	246	25.9%
3	430	16.3%	177	10.5%	253	26.6%
4	563	21.4%	380	22.6%	183	19.2%
5	598	22.7%	355	21.1%	243	25.6%
6	599	22.7%	325	19.3%	274	28.8%
7	852	32.3%	575	34.1%	277	29.1%
合計	2,635	100.0%	1,684	100.0%	951	100.0%

【Q13-3 確定拠出年金：投資したい商品】



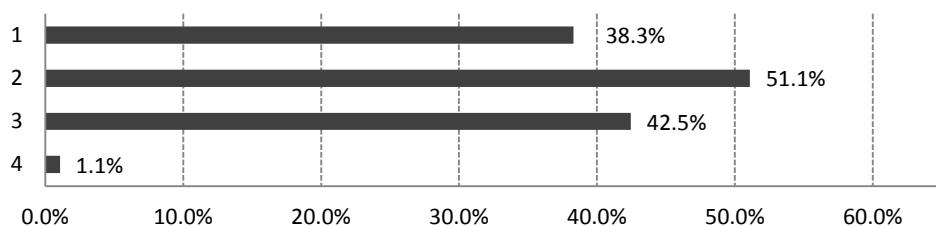
(問 13-3 で「1.」～「6.」を選択した人について)

問 13-4 自分の確定拠出年金プランでそのような商品に投資しようと思う理由は何ですか。(複数回答)

1. このような問題に取り組んでいる企業や機関を、年金投資を通じて支援したいと思うから。
2. このような商品に投資することは、自分の周りの社会や環境が良くなることにつながるから。
3. 環境や社会問題などに取り組んでいる企業は長期的に成長し、投資した商品の価値が将来的に上がると思うから。
4. その他 ()

	全体		男性		女性	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	683	38.3%	414	37.3%	269	39.9%
2	911	51.1%	531	47.9%	380	56.4%
3	757	42.5%	491	44.3%	266	39.5%
4	19	1.1%	14	1.3%	5	0.7%
合計	1,783	100.0%	1,109	100.0%	674	100.0%

【Q13-4 確定拠出年金：Q13-2について投資しようと思う理由】

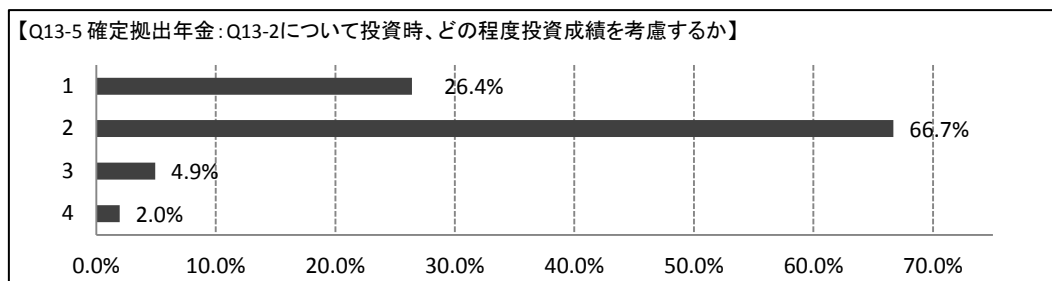


(問 13-3 で「1.」～「6.」を選択した人について)

問 13-5 あなたが上記のような商品に投資する場合、その商品の投資成績をどの程度考慮しますか。(単一回答)

1. 他の投資商品より投資成績がよければ投資する
2. 他の投資成績と同程度なら投資する
3. 他の投資商品よりある程度投資成績が悪くても投資する
4. 投資成績にかかわらず投資する

	全体		男性		女性	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	471	26.4%	301	27.1%	170	25.2%
2	1,189	66.7%	731	65.9%	458	68.0%
3	88	4.9%	54	4.9%	34	5.0%
4	35	2.0%	23	2.1%	12	1.8%
合計	1,783	100.0%	1,109	100.0%	674	100.0%



(問 13-3 で「7.」を選択した人について)

問 13-6 自分の確定拠出年金プランでそのような商品に投資しようと思わない理由は何ですか。(複数回答)

1. 確定拠出年金プランは自分の将来の年金を確保するためのものであって、このような社会的な問題は関係ないから。
2. このような社会的問題で投資先を選択することは投資成績に結びつかないと思うから。
3. 環境や社会問題などに取り組んでいる企業は、追加的なコストがかかり、投資した商品の価値が将来的に上がると思わないから。

4. その他（ ）

	全体		男性		女性	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	441	51.8%	291	50.6%	150	54.2%
2	268	31.5%	197	34.3%	71	25.6%
3	222	26.1%	155	27.0%	67	24.2%
4	59	6.9%	33	5.7%	26	9.4%
合計	852	100.0%	575	100.0%	277	100.0%

